

第4回  
大学生の学習・生活実態調査  
【データ集】

2022年7月

ベネッセ教育総合研究所

# ◆調査の目的とデータ集の内容

【2】

## ●目的

2008年から継続的に実施している大学生を対象とした大規模調査から、大学生の生活や学習、大学教育の経年変化を把握する

## ●内容

### Part01: 高校から大学入学まで ..... p.6

高校時代の学習の様子／高校時代の学びの経験／高3のときの学習時間／大学進学理由／入学志望度・入学満足度／入学時と現在の積極性

### Part02: 大学での生活と学習 ..... p.13

力を入れたこと／大学教育観／大学の授業の様子／大学の授業の形態／授業に対する取り組み／学習に対する態度／生活時間／登校日数／授業の形態・効果実感／オンライン授業のメリット／オンライン授業のデメリット／身についた資質・能力

### Part03: 大学生の人間関係 ..... p.27

学内の友人関係／学外の友人関係／友人「いない+1人」の割合／友人になるきっかけ／人づきあい／教職員との関係／自立・親子関係／保護者との関係

### Part04: 留学と就職 ..... p.36

留学／就職活動開始時期／進路決定状況／インターンシップ参加／内定先・進路希望

### Part05: 学びに対する意識・将来観/社会観 ..... p.42

建学の精神・3ポリシーの認知／大学による支援の利用／大学満足度／学びの充実度／成長実感／姿勢・態度／将来観／自己認識／自他の関係／レジリエンス／コロナ禍の影響

# ◆調査概要

【3】

## ●調査対象

- 全国の大学1～4年生

## ●調査方法

- インターネット調査

## ●各回の調査時期・サンプル数

- 第1回 2008年10月 4,070名(男子2,439名、女子1,631名)
- 第2回 2012年11月 4,911名(男子2,791名、女子2,120名)
- 第3回 2016年11～12月 4,948名(男子2,680名、女子2,268名)
- 第4回 2021年12月 4,124名(男子2,228名、女子1,896名)

※インターネット調査会社の約930万人のモニター母集団のうち、「大学生」として登録されている約35万人に対して予備調査を実施。このうち、大学1～4年生(18～24歳、日本在住)にアンケートの協力を依頼。

※各回、文部科学省の『学校基本調査』の男女比率に近いサンプル構成になるように回収している。

## ●調査内容

- 高校での学習状況／大学選択理由／大学の志望度／入学時の期待／大学生活で力を入れたこと／大学生生活の過ごし方／教職員との交流／保護者との関係／友だち関係／大学教育観／学びの機会／授業方法(対面授業・オンライン授業)に対する評価／学びに対する姿勢・態度／大学生活で身につけたこと／海外留学の意向／進路意識／建学の精神やポリシーの認知／大学生活の満足度／学びの充実／成長実感／社会観・就労観／就職活動・インターンシップ など

※調査内容は、経年比較が可能になるように毎回ほぼ同一の内容にしているが、各回ごとの問題関心により異なる内容を含めている。

## ●調査メンバー

- 川嶋太津夫(大阪大学)、杉谷祐美子(青山学院大学)、山田剛史(関西大学)、谷田川ルミ(芝浦工業大学)、樋口健(新潟大学)、小林一木・木村治生・朝永昌孝(以上、ベネッセ教育総合研究所)

# ◆第4回調査の対象者の属性

## ●調査対象は全国の大学1～4年生、4,124名回答

性別	男子	女子
	54.0	46.0

※以下の数値は、構成比率（%）を示している。

学年	1年生	2年生	3年生	4年生
	25.0	25.0	25.0	25.0

所属大学	4年制	6年制	通信制	昼夜開講制	専門職大学	海外の大学
	93.5	4.6	1.3	0.4	0.9	0.1

※所属大学については複数回答のため合計は100%にならない。

学部系統	人文系	社会学系	外国語学系	法学系	経済系	国際学系	教育学系	生活科学系	芸術学系
	13.0	6.5	3.6	7.6	16.5	2.4	5.5	2.6	2.7
	総合科学系	保健衛生系	医学系	歯学系	薬学系	理学系	工学系	農水産学系	その他
	1.2	6.8	2.3	0.5	2.6	5.4	14.7	3.4	2.5

設置主体	国立	公立	私立
	23.2	8.2	68.6

大学所在地	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
	8.0	42.0	15.1	20.3	7.5	7.2

住まい	自宅	一人暮らし	大学寮	大学以外の寮	その他
	63.4	31.7	2.9	0.5	1.5

## ◆第1回調査から第4回調査までの対象者の属性に大きな偏りはない

# ◆主な結果の要約

【5】

## Part01:高校から大学入学まで【p.6~】

高校時代の学習時間に大きな変化はないが、授業では「話し合う」「発表する」などの表現にかかわる活動が増えている。大学進学理由は、「興味ある学問領域がある」「大学名が知られている」などが減少した。第一志望での入学が増え、入学の満足度もわずかに向上している。

## Part02:大学での生活と学習【p.13~】

「単位を楽に取れる授業がよい」「学習方法は授業で指導を受けるのがよい」が増加して、依存的な傾向が強まっている。授業の時間は減少する一方で、予復習・課題は微増、自主学習は変化がみられない。大学の授業は、コロナ禍で停滞がみられるが、アクティブ・ラーニング型の授業は広がっている。科学的な学習態度をとっているという自己評価も高い。現在の授業形態は、「対面が多い」が5割、「オンラインが多い」が3割。オンライン授業の自由さ・マイペースさを評価する一方で、「一方的な授業が多い」、「対話や議論がしにくい」などのマイナス面も意識している。

## Part03:大学生の人間関係【p.27~】

学内の友人も学外の友人も、「いない」「1人」が増加して、友人数が減少している。友人になるきっかけが減っている。人づきあいでは、「友だちと話が合わないと不安」という意識が強まった。教職員との関係では、授業以外で交流がある教員が「いる」が減少。保護者との関係は、困ったとき「保護者が助けてくれる」が増加した。

## Part04:留学と就職【p.36~】

留学希望は減少。就職活動は、活動が早期化し、半数以上が3年生の夏休み前に活動を開始している。インターンシップは「半日や1日のもの」が主流。進路決定状況や内定先などに大きな変化はない。

## Part05:学びに対する意識・将来観/社会観【p.42~】

大学の建学の精神や3ポリシーを認知しているのは3割に満たない。大学の満足度に関しては、半数以上が「満足している」と回答。しかし、学びの充実度や成長実感は、わずかに低下していて、2020年の数値が低い。16年から21年にかけて、「チャレンジする仕事がしたい」が高まる一方で、「幸せだ」「人生が面白い」という実感が減少。コロナ禍が自分にとってプラスかマイナスかをたずねたところ、プラスが4割、どちらでもないが3割、マイナスが3割であった。

# ◆ Part01 : 高校から大学入学まで

【6】

- 高校時代の学習の様子 (p.7) ……「グループワーク・討論に積極的に参加」が14.7pt.増加した
- 高校時代の学びの経験 (p.8) ……「話し合う」「発表する」など表現にかかわる経験が増加した
- 高3のときの学習時間 (p.9) ……高校3年生のときの学習時間はほとんど変化していない
- 大学進学理由 (p.10) ……「興味のある学問分野」「大学名が知られている」が減少
- 入学志望度／入学満足度 (p.11) ……「第一志望」／「満足して入学」がともに微増
- 入学時と現在の積極性 (p.12) ……「与えられれば興味をもってやる」が増加して半数前後になった

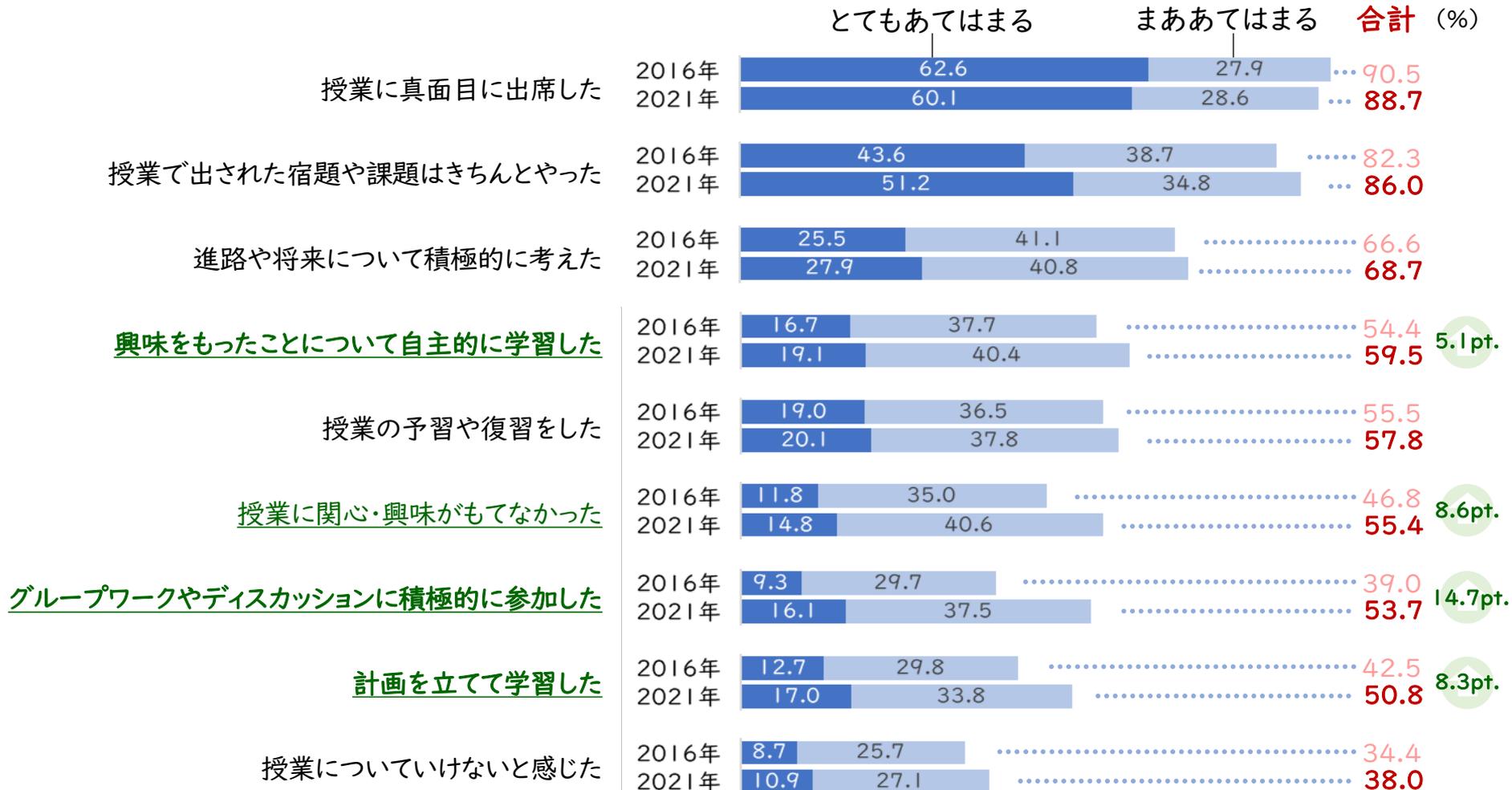


# ◆高校時代の学習の様子

【7】

● 「グループワーク・討論に積極的に参加」が14.7pt.増加した

◆高校時代の学校や家での学習の様子についてお聞きします。



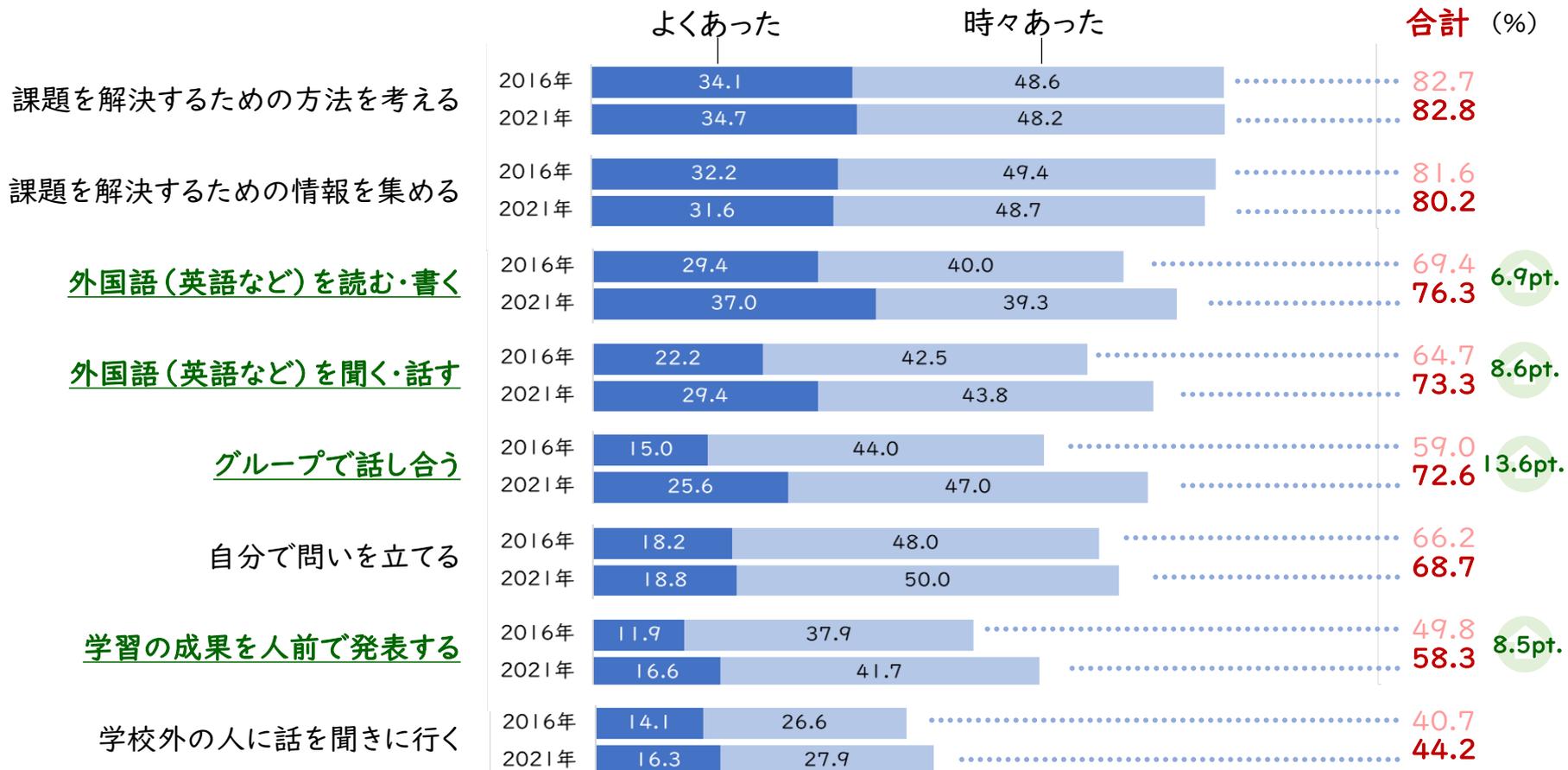
※2008年、2012年は調査していない。

# ◆高校時代の学びの経験

【8】

●「話し合う」「発表する」など表現にかかわる経験が**増加**した

◆あなたは高校時代の学習に際して、次のようなことをどの程度経験しましたか。



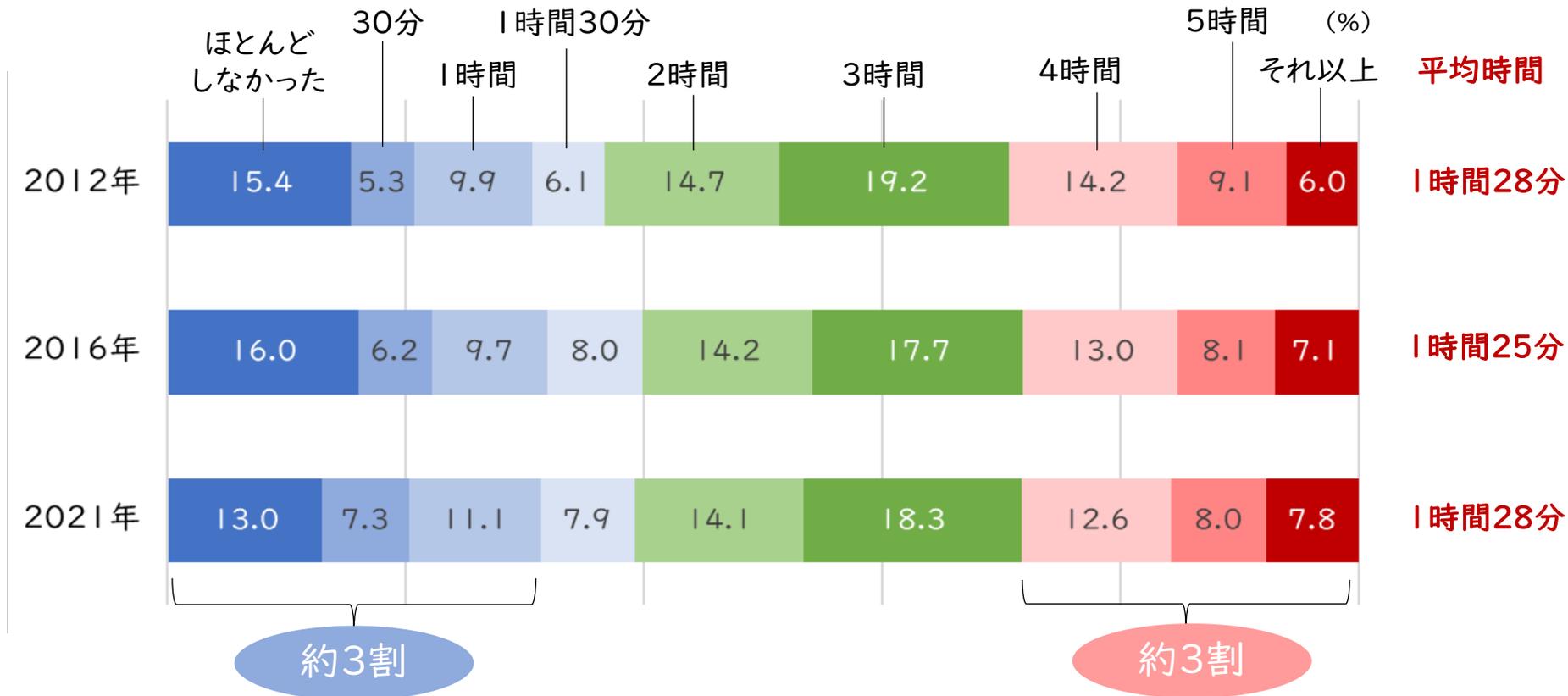
※2008年、2012年は調査していない。

# ◆高3のときの学習時間

【9】

●高校3年生のときの**学習時間**はほとんど**変化していない**

◆高校3年生の9月の初め頃、平日に学校の授業以外で、1日平均で何時間くらい勉強していましたか。（学習塾や予備校、家庭教師、学校での課外の補習・講習での勉強時間も含む）



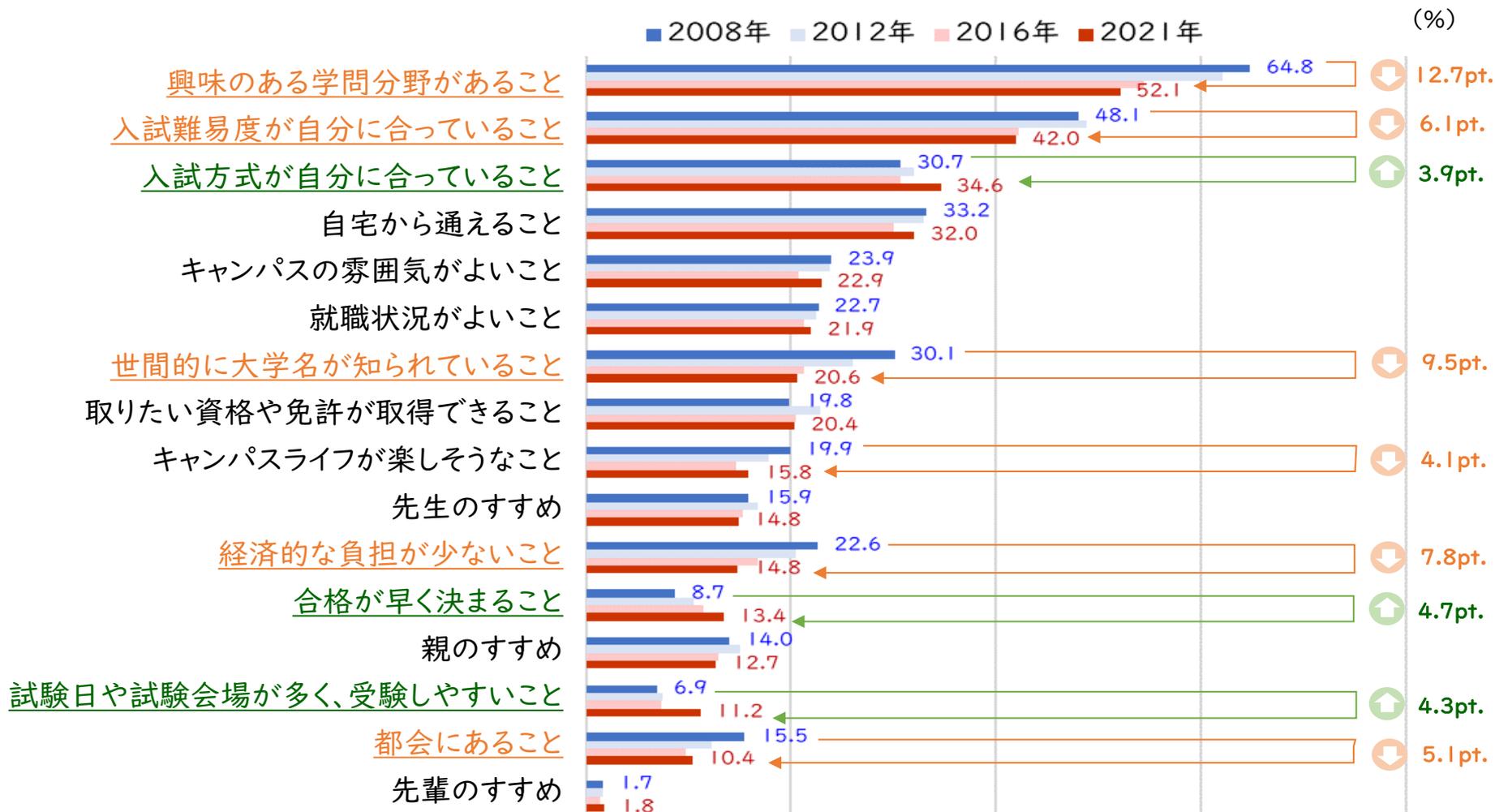
※2008年は調査していない。

◆一貫して「1時間以内」が3割、「4時間以上」が3割と分散する

# ◆大学進学理由

## ●「興味のある学問分野」「大学名が知られている」が減少

◆受験する大学・学部を決める際に重視した点について、あてはまるものをお選びください。



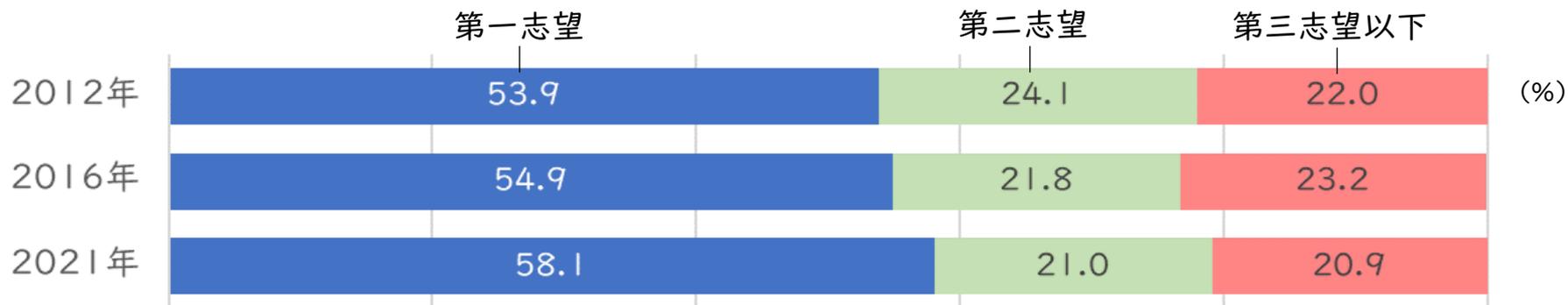
※4時点で比較できる項目のみを抜粋、2012年と2016年の数値の表記は省略した。

# ◆入学志望度／入学満足度

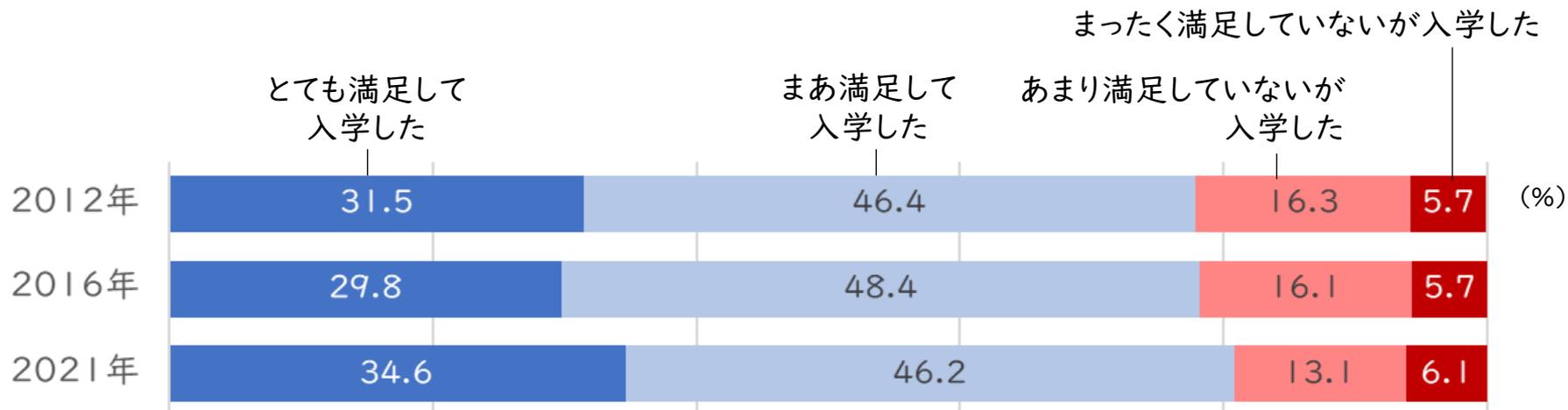
【11】

## ●「第一志望」／「満足して入学」がともに微増

◆受験した時の、現在通っている大学の志望度について、あてはまるものをお選びください。



◆受験した時の、現在通っている大学の志望度について、あてはまるものをお選びください。



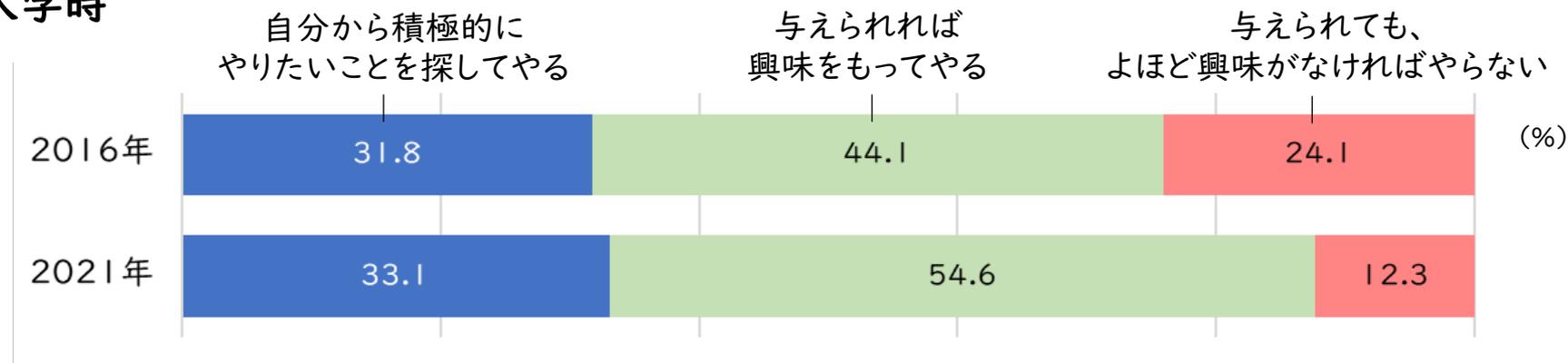
※2008年は調査していない。

# ◆入学時と現在の積極性

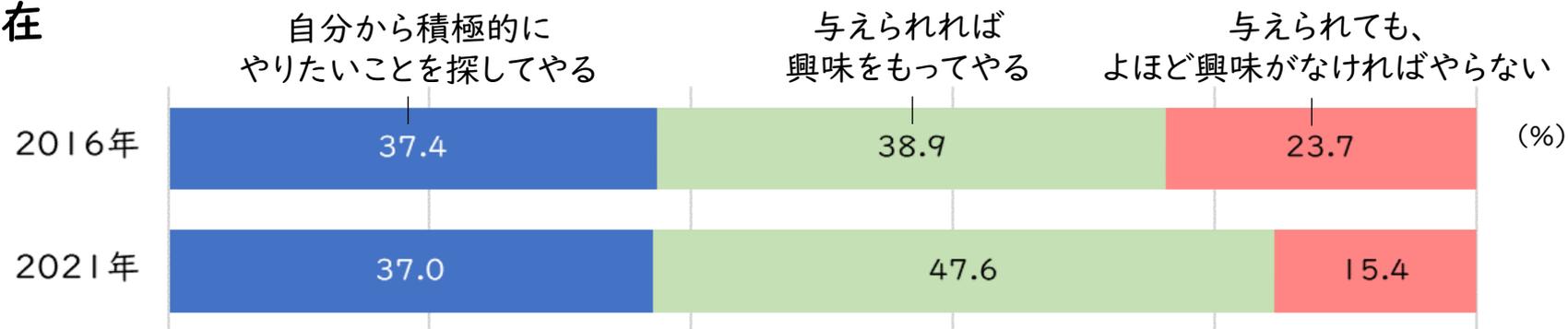
●「**与えられれば興味をもってやる**」が増加して半数前後になった

◆大学入学時と現在のあなたの行動タイプにあてはまるものを、直感的にお選びください。

## ●入学時



## ●現在



※2008年、2012年は調査していない。

◆「積極的に探してやる」は3～4割でほぼ変わらず

## ◆ Part02：大学での生活と学習

【13】

- 力を入れたこと (p.14) ……「授業」「自主的な学習」は増加、「サークルや部活動」は減少
- 大学教育観 (p.15) ……「単位を楽に取れる授業」「学習方法は授業で指導」が増加
- 大学の授業の様子 (p.17) ……微増している項目が多いが、授業の様子は大きくは変わらず
- 大学の授業の形態 (p.18) ……コロナ禍で停滞はみられるが、AL型の授業は広がっている
- 授業に対する取り組み (p.19) ……グループワークで「異なる意見に配慮」「意見を言う」が増加
- 学習に対する態度 (p.20) ……科学的な学習態度に対する肯定率(自己評価)が高まっている
- 生活時間 (p.21) ……授業は大幅減の一方で、予復習・課題は微増、自主学習は変化なし
- 登校日数 (p.22) ……平均登校日数は回復基調にあるが、19年の水準には戻っていない
- 授業の形態／効果実感 (p.23) ……現在の授業形態は対面が多い5割、オンラインが多い3割
- オンライン授業のメリット (p.24) ……学習効果よりも、自由・マイペースにできることの評価が高い
- オンライン授業のデメリット (p.25) ……「一方的な授業が多い」「対話や議論がしにくい」が多い
- 身についた資質・能力 (p.26) ……協働的な学びで身につく資質・能力の自己評価が高まる

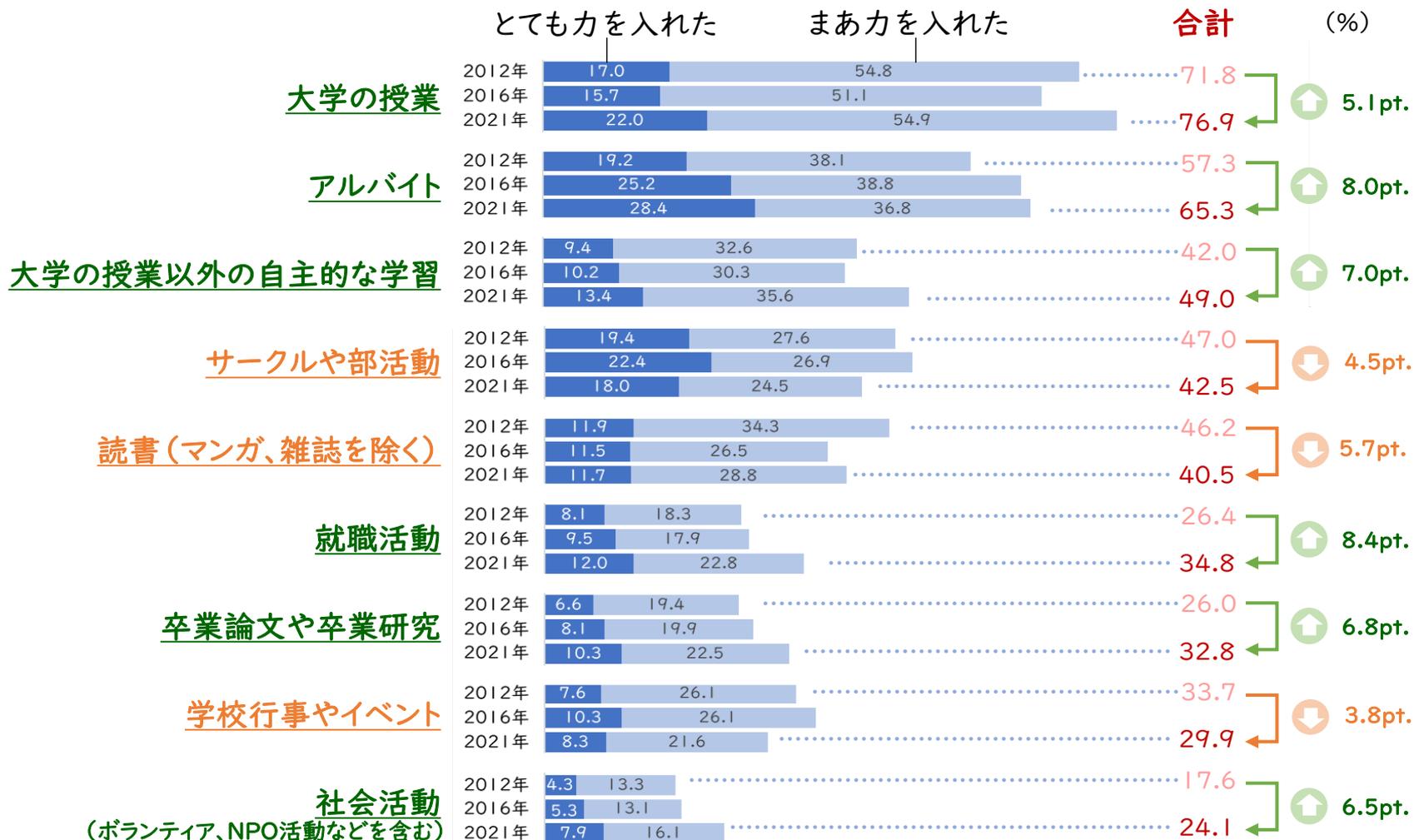


## ◆力を入れたこと

【14】

## ●「授業」「自主的な学習」は増加、「サークルや部活動」は減少

◆あなたは次の項目について、これまでの大学生活の中で、どのくらい力を入れてきましたか。



※2008年は調査していない。

# ◆大学教育観①

【15】

## ●「単位を楽に取れる授業」「学習方法は授業で指導」が増加

◆大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。

### ①単位取得

【A】あまり興味がなくても、単位を楽にとれる授業がよい

【B】単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業がよい

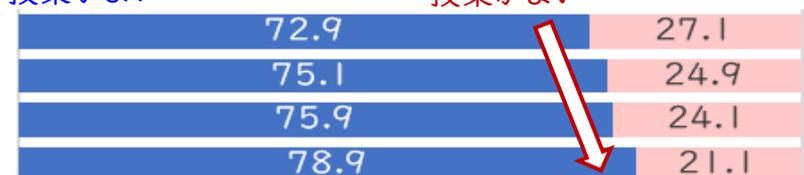


### ②授業難度

(%)

【A】応用・発展的内容は少ないが、基礎・基本が中心の授業がよい

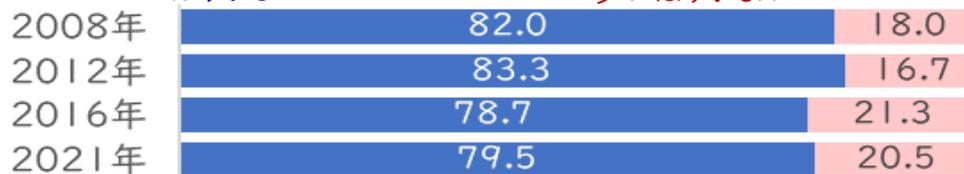
【B】基礎・基本は少ないが、応用・発展的内容が中心の授業がよい



### ③授業形式

【A】教員が知識・技術を教える講義形式の授業が多いほうがよい

【B】学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が多いほうがよい



### ④身につけたい知識

【A】大学では幅広い分野の知識や技能を身につけたほうがよい

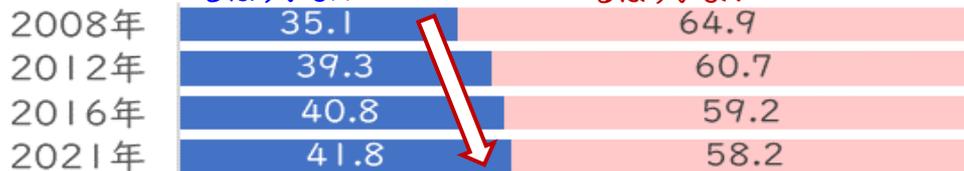
【B】大学では特定の専門分野の知識や技能を身につけたほうがよい



### ⑤単位の系統

【A】あまり自由に選択履修できなくても、系統立って学べるほうがよい

【B】あまり系統立って学べなくても、自由に選択履修できるほうがよい



### ⑥学習方法

【A】大学での学習の方法は、大学の授業で指導をうけるのがよい

【B】大学での学習の方法は、学生が自分で工夫するのがよい



## ◆大学教育観②

【16】

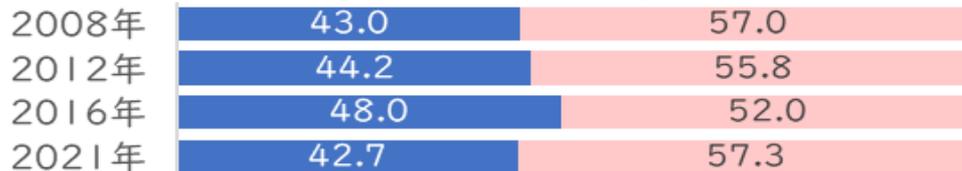
## ● 「学生生活は大学が指導」「知識・技能の獲得は大学の責任」が増加

◆大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。

## ⑦将来決定

【A】学生は将来やりたいことを決めて、授業をうけるほうがよい

【B】学生は授業を通じて、将来やりたいことをみつけるほうがよい



## ⑧学生生活

(%)

【A】学生生活については、大学の教員が指導・支援するほうがよい

【B】学生生活については、学生の自主性に任せるほうがよい



## ⑨就職活動

【A】就職については、大学の指導・支援にもとづいて活動する方がよい

【B】就職については、学生の自主性にもとづいて活動する方がよい



## ⑩重要な学び

【A】大学では、答えのない問題について、自分なりの解を探求する学びが重要だ

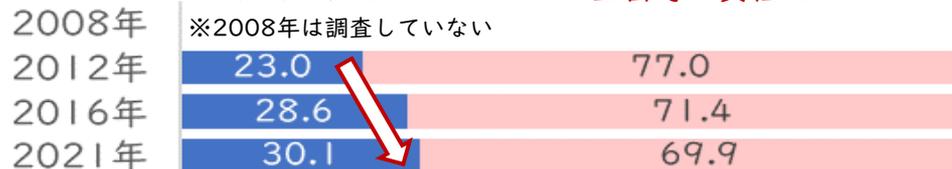
【B】大学では、既にある学問の知識について、体系的に修得する学びが重要だ



## ⑪責任

【A】学生が知識や技能を身につけられるかどうかは、大学の教育の責任だ

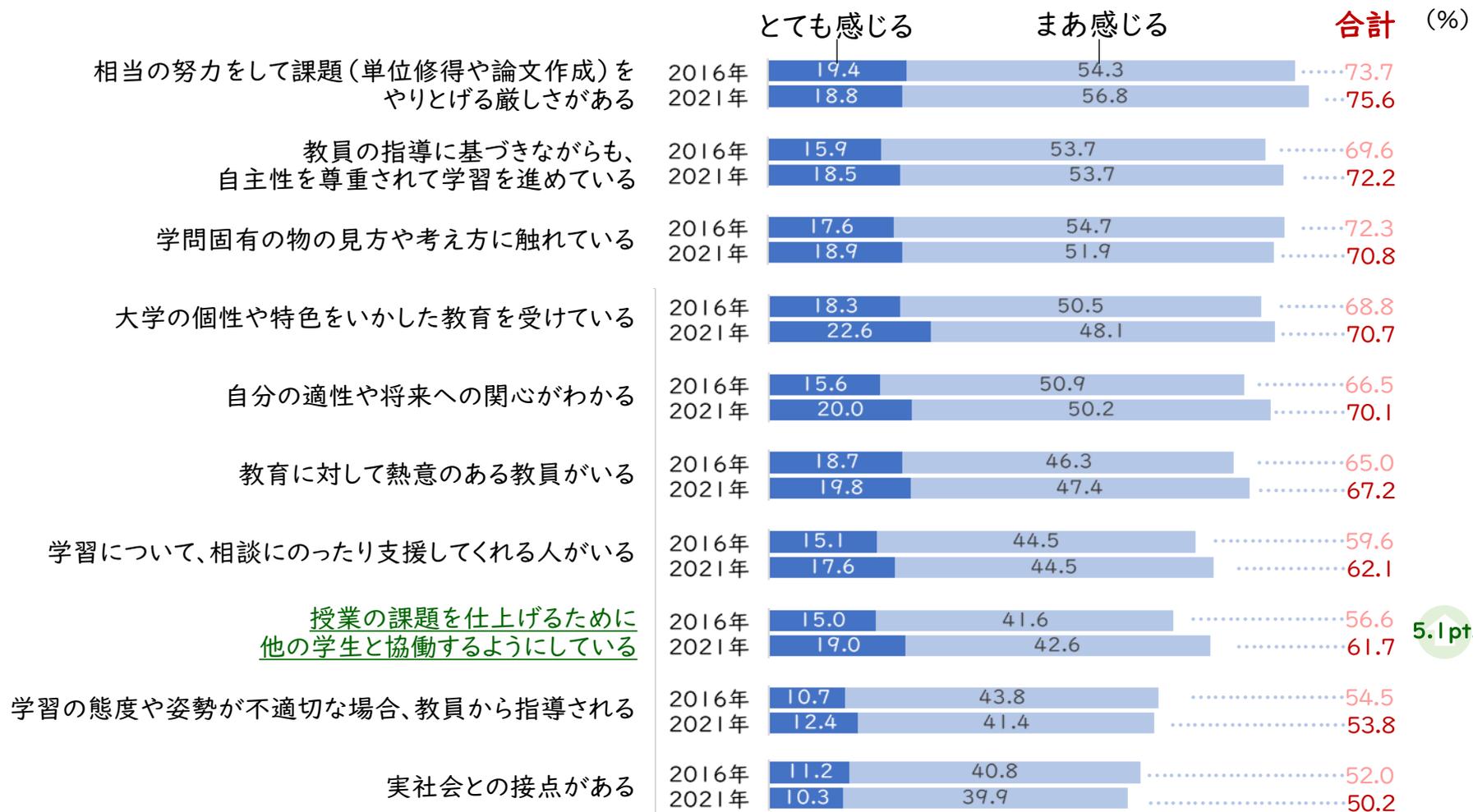
【B】学生が知識や技能を身につけられるかどうかは、学生自身の責任だ



# ◆大学の授業の様子

●微増している項目が多いが、**授業の様子は大きくは変わらず**

◆大学教育（授業、ゼミ、研究室、先生からの指導など）を通して、次のようなことをどのくらい感じますか。



5.1 pt.

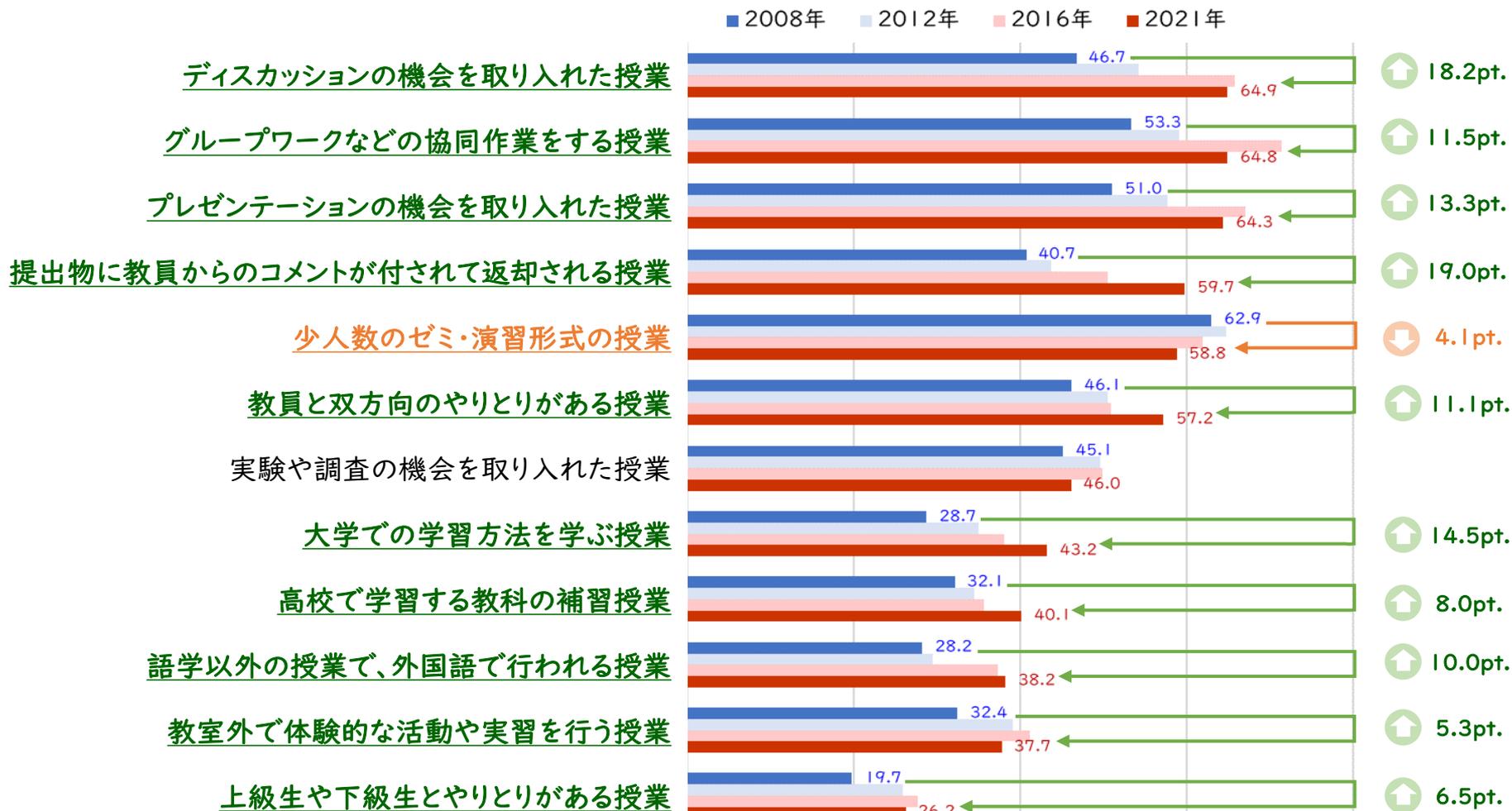
※2008年、2012年は調査していない。

# ◆大学の授業の形態

【18】

●コロナ禍で停滞はみられるが、AL型の授業は広がっている

◆あなたはこれまで大学で、次のような授業を経験しましたか。 ※「よくあった」+「ある程度あった」(%)



※4時点で比較できる項目のみを抜粋、2012年と2016年の数値の表記は省略した。

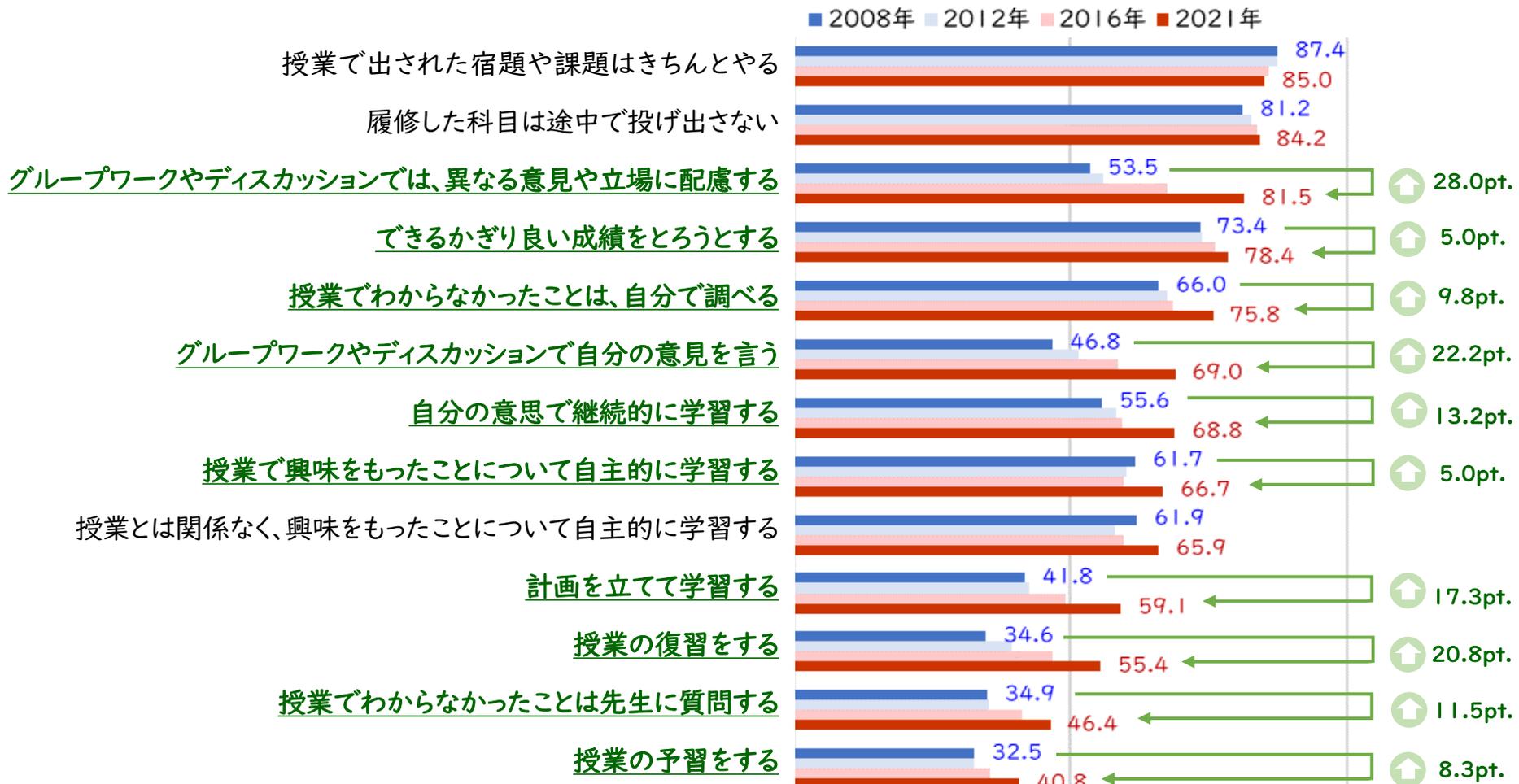
# ◆授業に対する取り組み

【19】

●グループワークで「異なる意見に配慮」「意見を言う」20pt.以上増加

◆あなたは大学での授業に、ふだんからどのように取り組んでいますか。

※「とてもあてはまる」+「まああてはまる」(%)



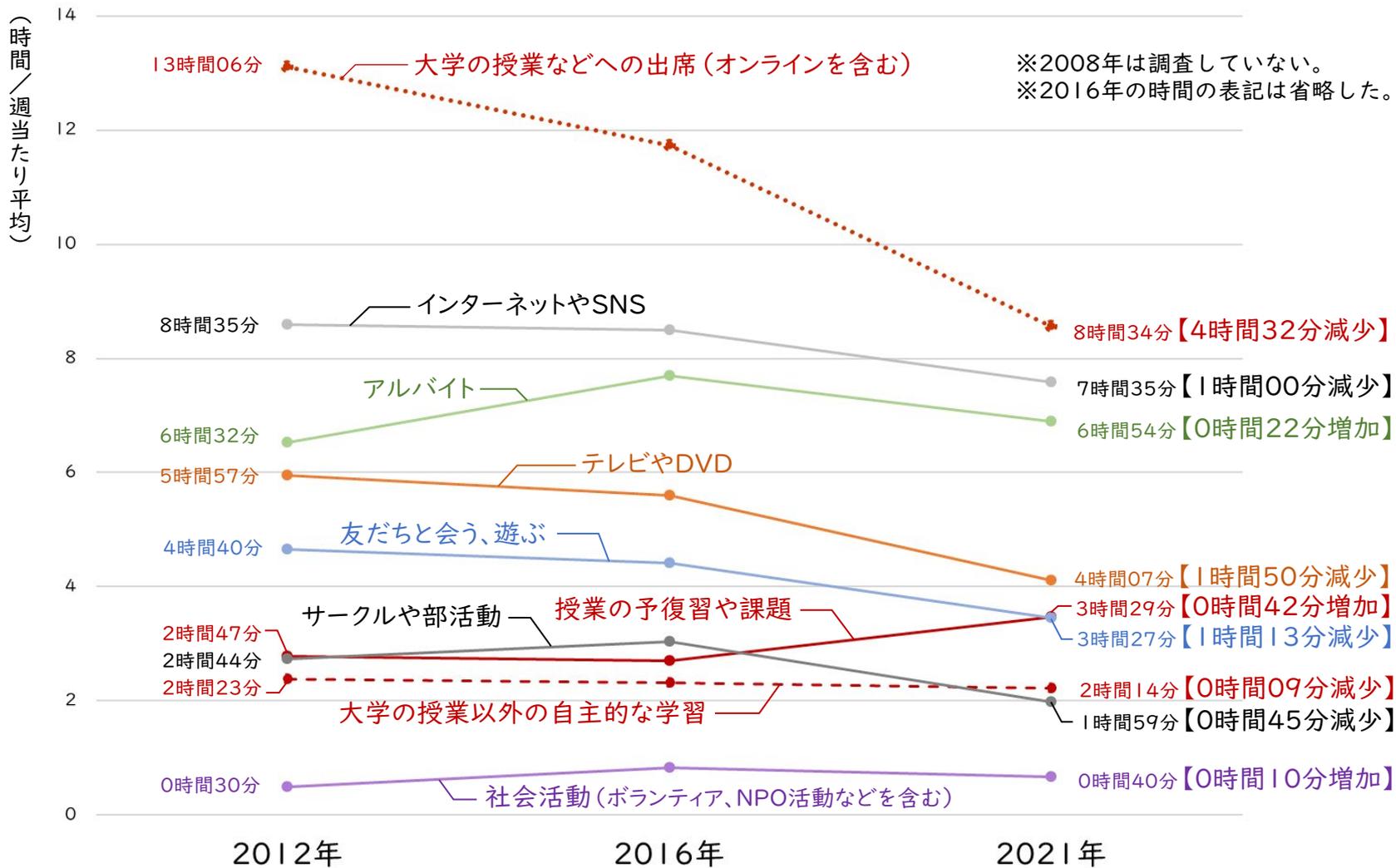
※4時点で比較できる項目のみを抜粋、2012年と2016年の数値の表記は省略した。



# ◆生活時間

●授業は大幅減の一方で、予復習・課題は微増、自主学習は変化なし

◆次の項目は1週間（月曜日～日曜日）で何時間くらいになりますか。

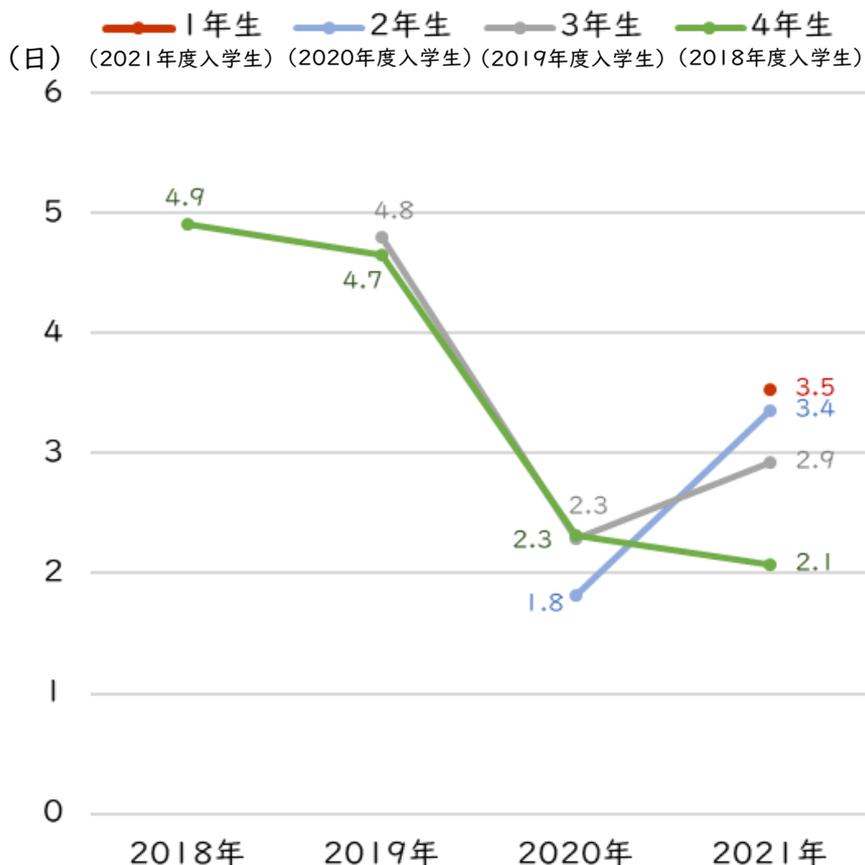


# ◆登校日数

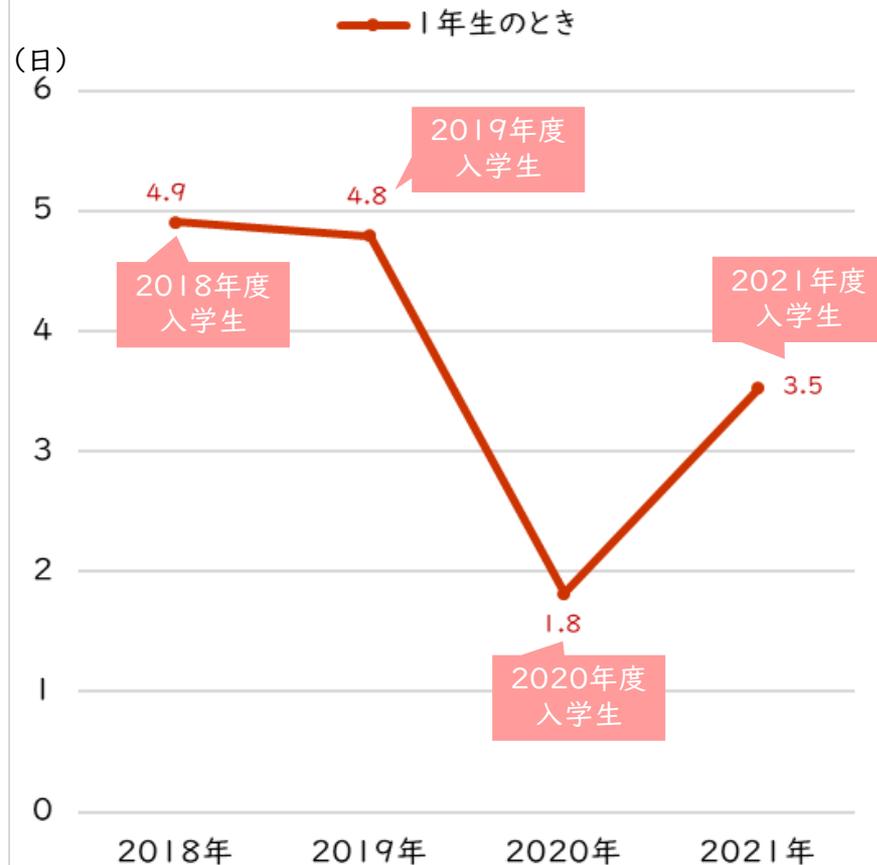
●平均登校日数は**回復基調**にあるが、**19年の水準には戻っていない**

◆あなたは、1週間のうちで何日くらい大学のキャンパスに通っていますか。  
1年生から現在までの状況について、だいたいの通学日数をお答えください。

## ●平均登校日数（学年別）



## ●1年生のときの平均登校日数



※2021年調査のみの質問。対象者に各学年のときの登校日数（週当たり）を回答してもらった。

# ◆授業の形態／効果実感

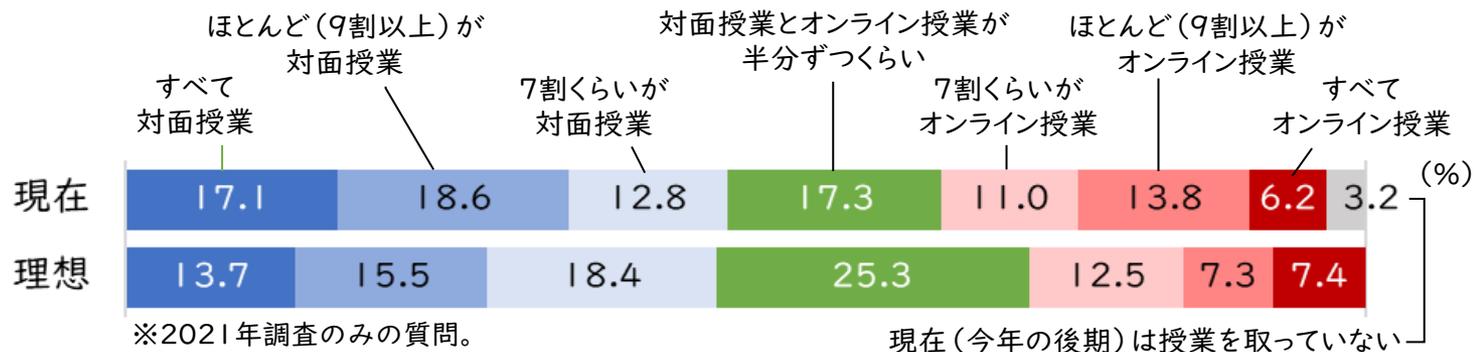
【23】

●現在の授業形態は、「対面が多い」5割、「オンラインが多い」3割

◆（現在）対面授業とオンライン授業は、どれくらいの割合で行われていますか。

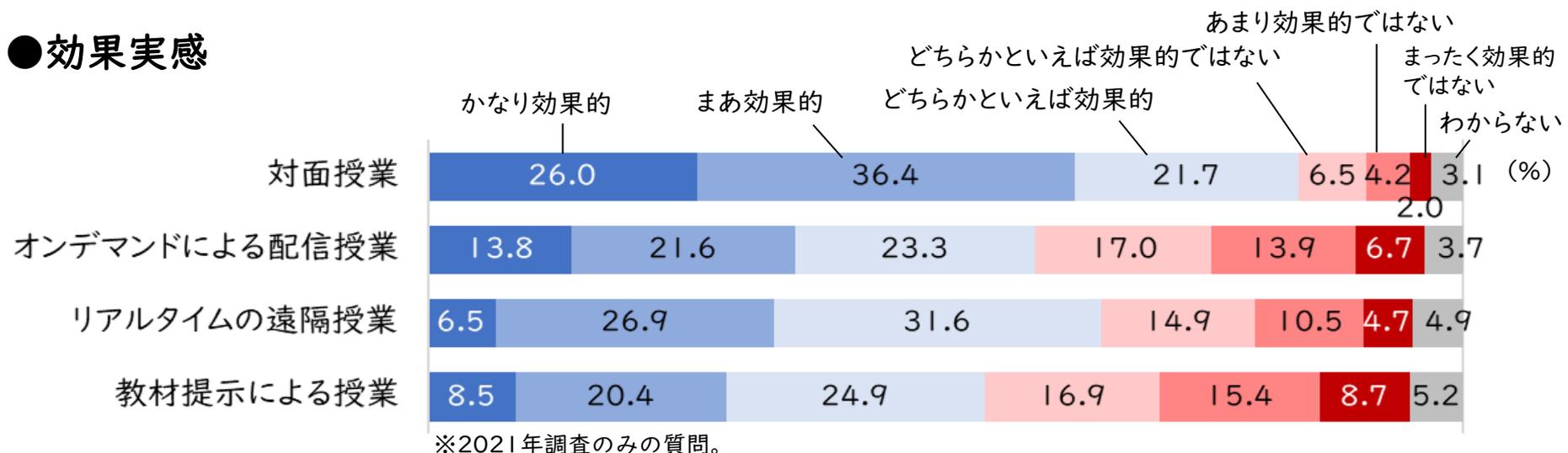
◆（理想）対面授業とオンライン授業は、どれくらいの割合で行われるのが良いと思いますか。

## ●授業の形態



◆次のような授業の形態は、学習成果を高めるのにどれくらい効果的だと思いますか。

## ●効果実感

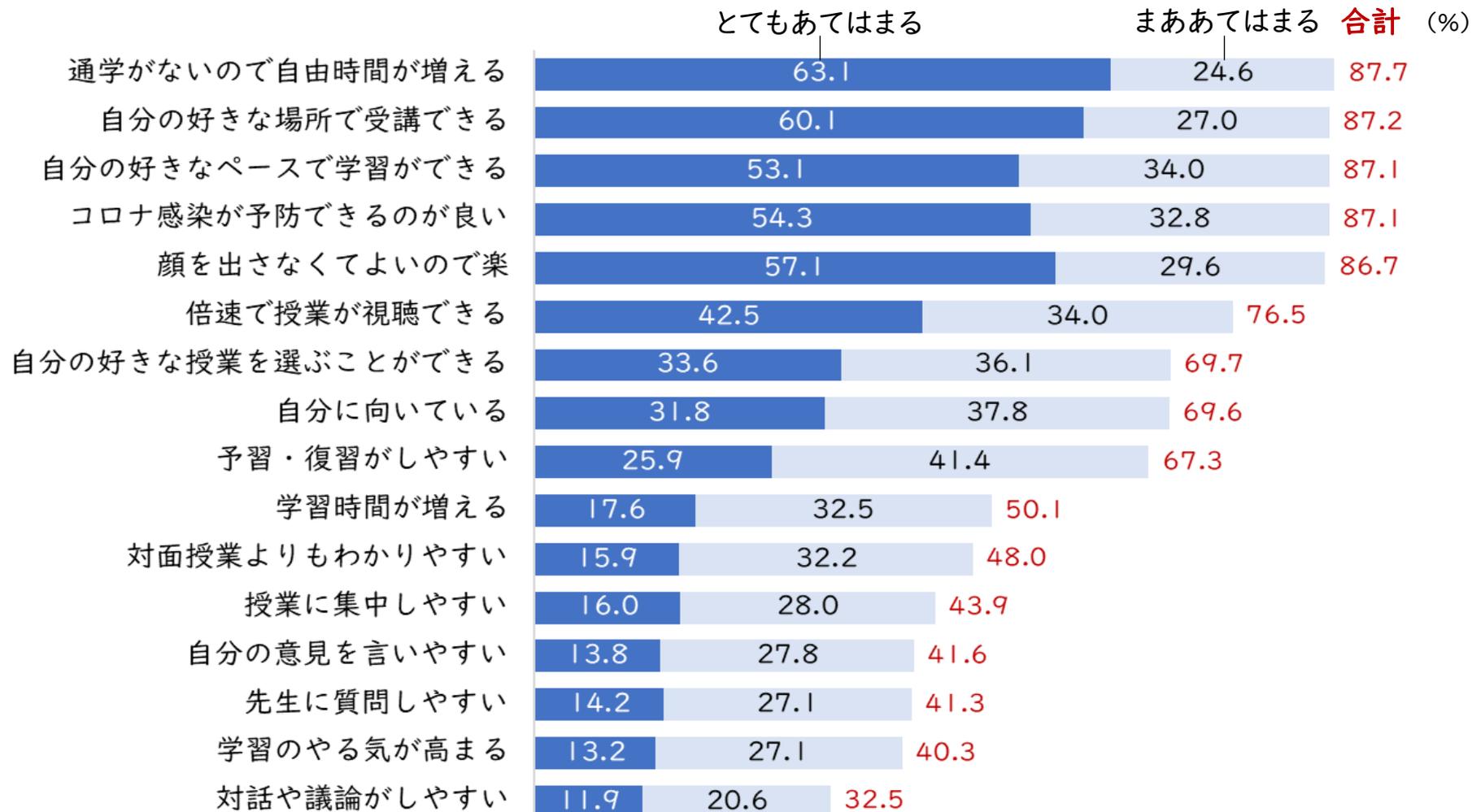


# ◆オンライン授業のメリット

【24】

●学習効果よりも、**自由・マイペース**にできることの**評価が高い**

◆オンライン授業のメリットについて、あなたはどのように思いますか。



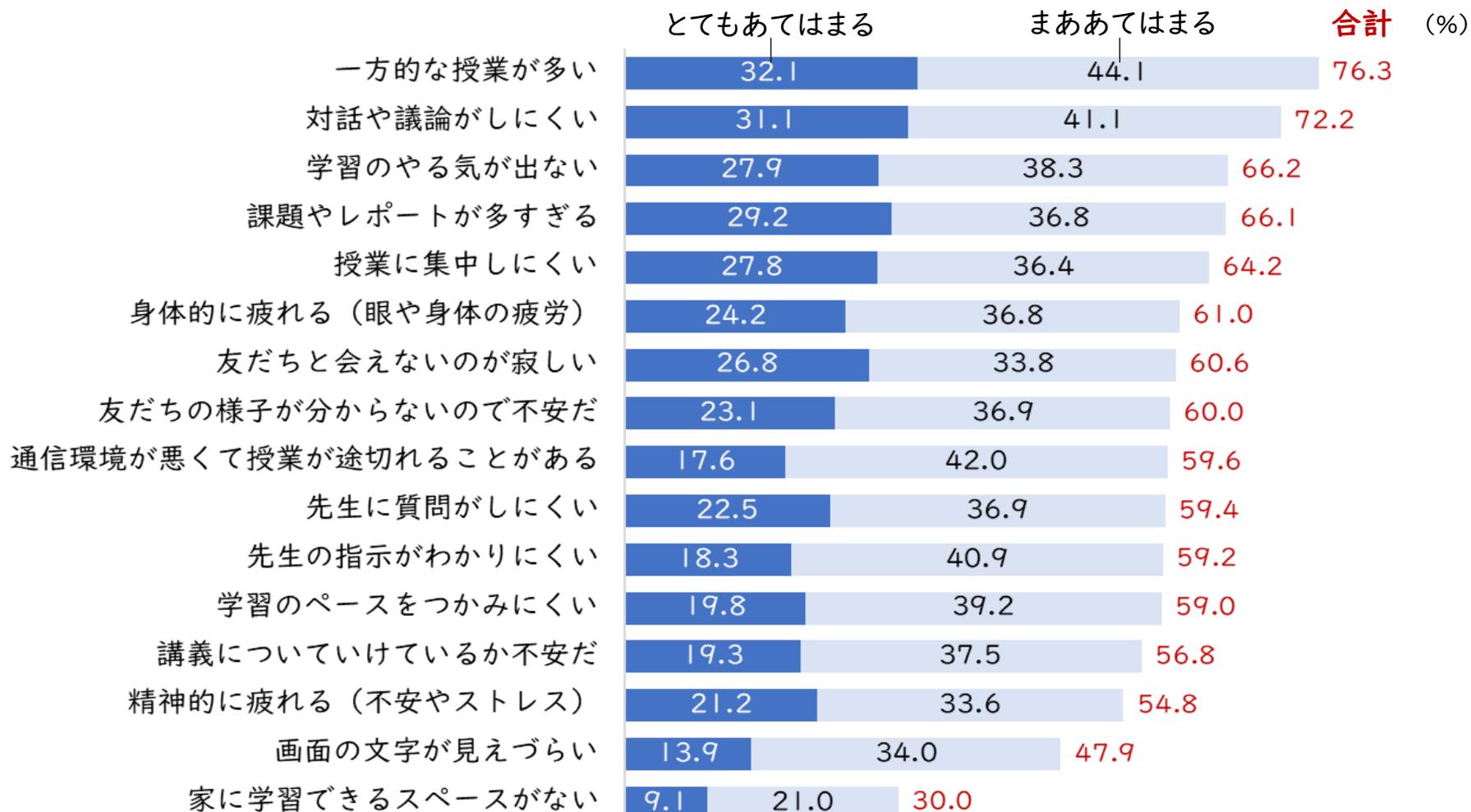
※2021年調査のみの質問。

# ◆オンライン授業のデメリット

【25】

●「一方的な授業が多い」「対話や議論がしにくい」が7割台が多い

◆オンライン授業のデメリットについて、あなたはどのように思いますか。

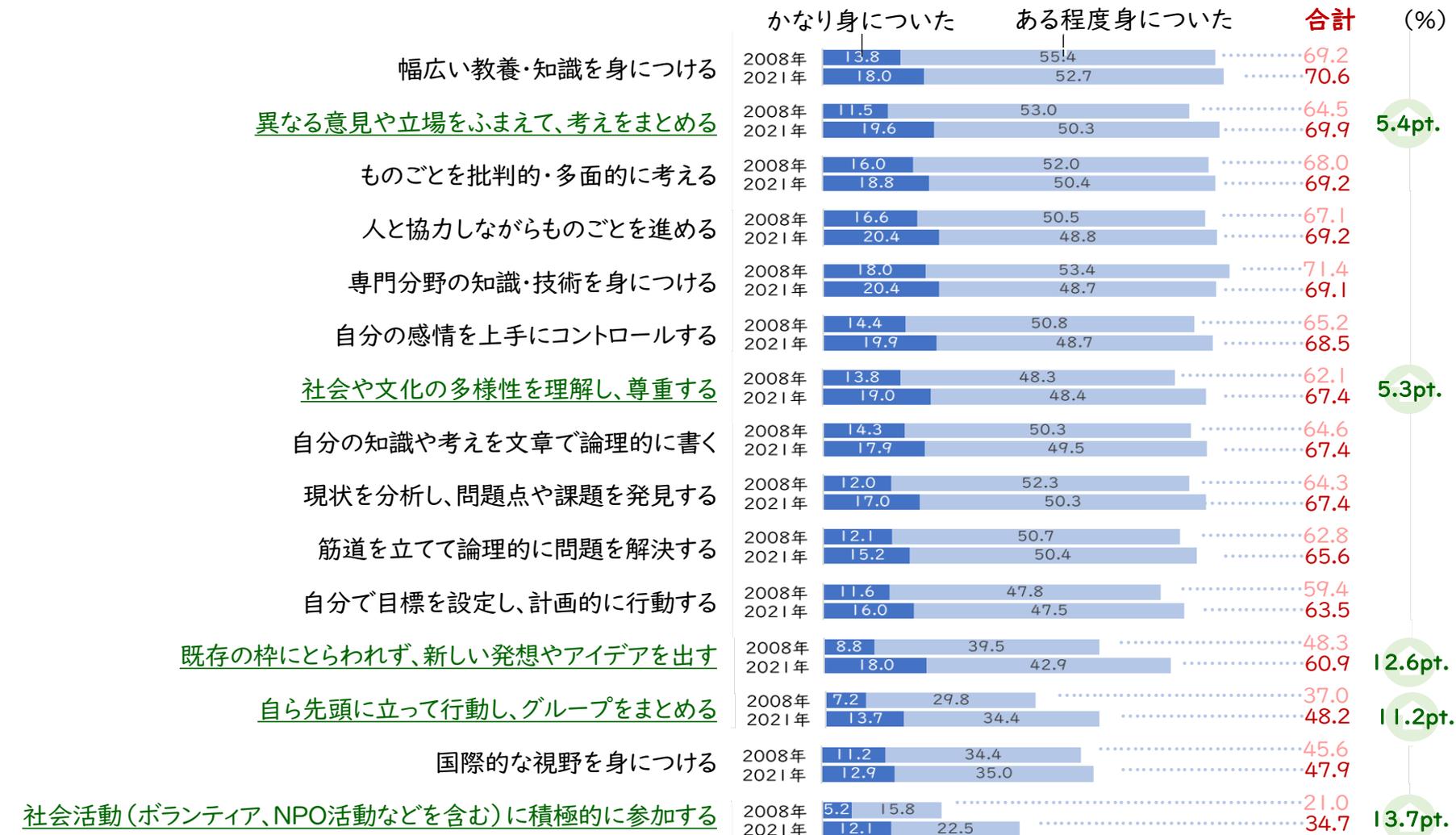


※2021年調査のみの質問。

# ◆身についての資質・能力

## ●協働的な学びで身につく資質・能力の自己評価が高まっている

◆次のようなことについて、大学生活全体を通じてどの程度身についたと思いますか。



※2012年、2016年の結果は、図から省略した。

## ◆ Part03：大学生の人間関係

【27】

- 学内の友人関係 (p.28) ……16年→21年にかけて、すべての項目で「いない」「1人」が増加
- 学外の友人関係 (p.29) ……学内の友人と同様に、16年→21年にかけて「いない」「1人」が増加
- 友人「いない+1人」の割合 (p.30) ……学内の友人は2年生、学外の友人は3・4年生で少ない
- 友人になるきっかけ (p.31) ……「部活動・サークル」「入学後のオリエンテーション」が減少
- 人づきあい (p.32) ……「友だちと話が合わない」と不安が12年と比べて18.3pt.増加
- 教職員との関係 (p.33) ……厳しいことを言う、授業以外で交流がある教員「いる」が減少
- 自立・親子関係 (p.34) ……16→21年で、大きく変化していない
- 保護者との関係 (p.35) ……困ったとき「保護者が助けてくれる」が08→21年で約20pt.増加



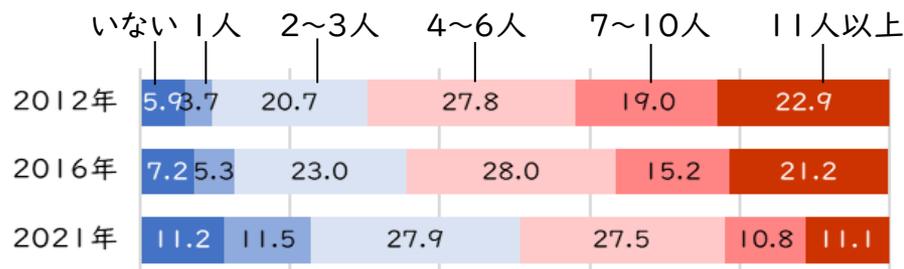
# ◆学内の友人関係

●16年→21年にかけて、すべての項目で「いない」「1人」が増加

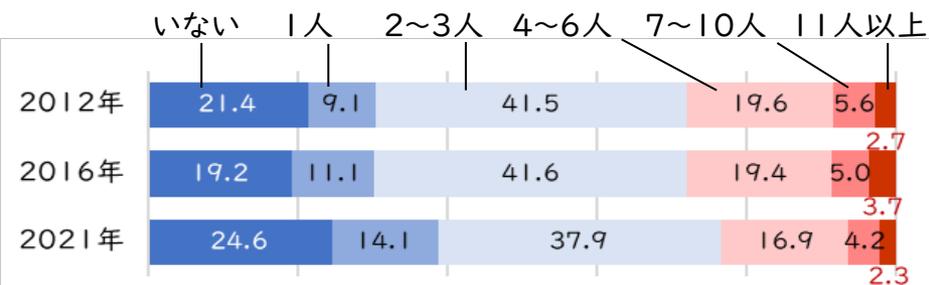
◆（大学内）次のようなことをする友だちは全部で何人くらいいますか。

(%)

話をしたり一緒に遊んだりする友だち



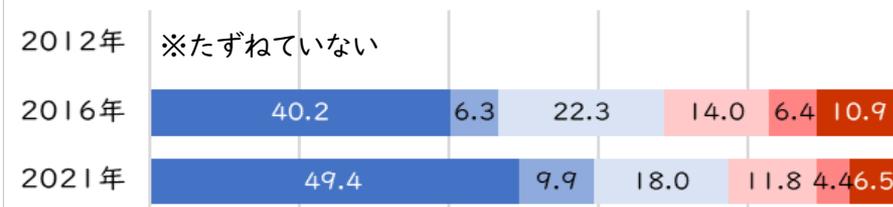
悩み事を相談できる友だち



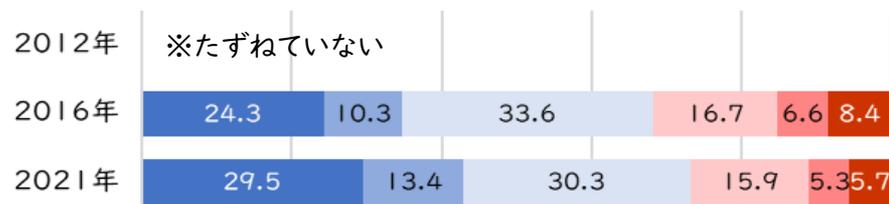
学習や広く社会の課題などについて議論をする友だち



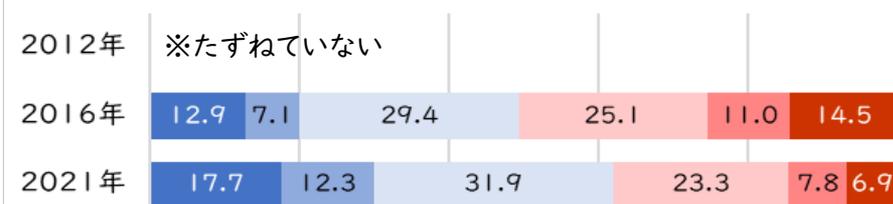
学習やスポーツで競い合う友だち



尊敬できる友だち



情報交換（授業や就職活動などについて）する友だち



※2008年は調査していない。

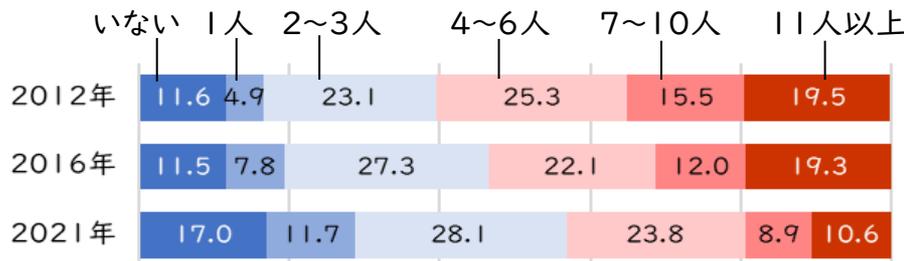
# ◆学外の友人関係

●学内の友人と同様に、16年→21年にかけて「いない」「1人」が増加

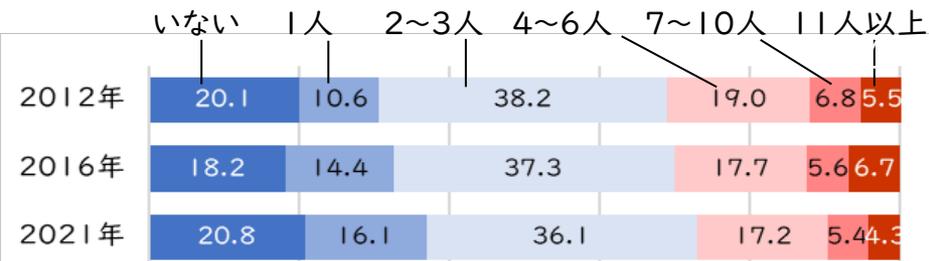
◆（大学外）次のようなことをする友だちは全部で何人くらいいますか。

(%)

話をしたり一緒に遊んだりする友だち



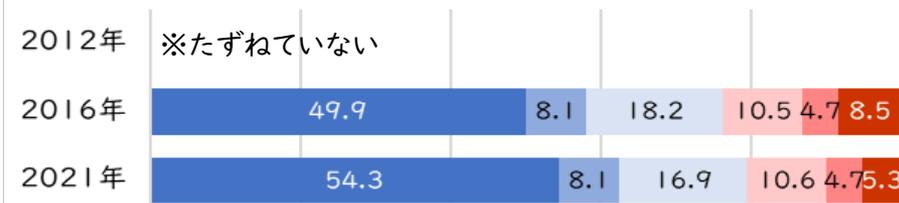
悩み事を相談できる友だち



学習や広く社会の課題などについて議論をする友だち



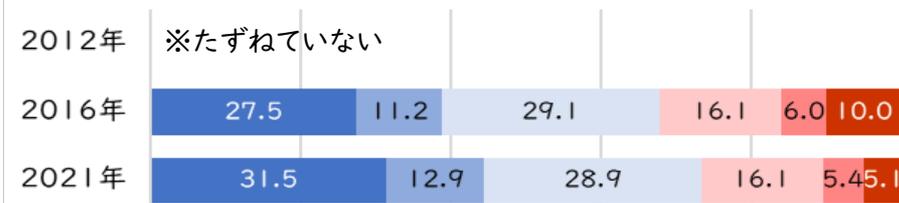
学習やスポーツで競い合う友だち



尊敬できる友だち



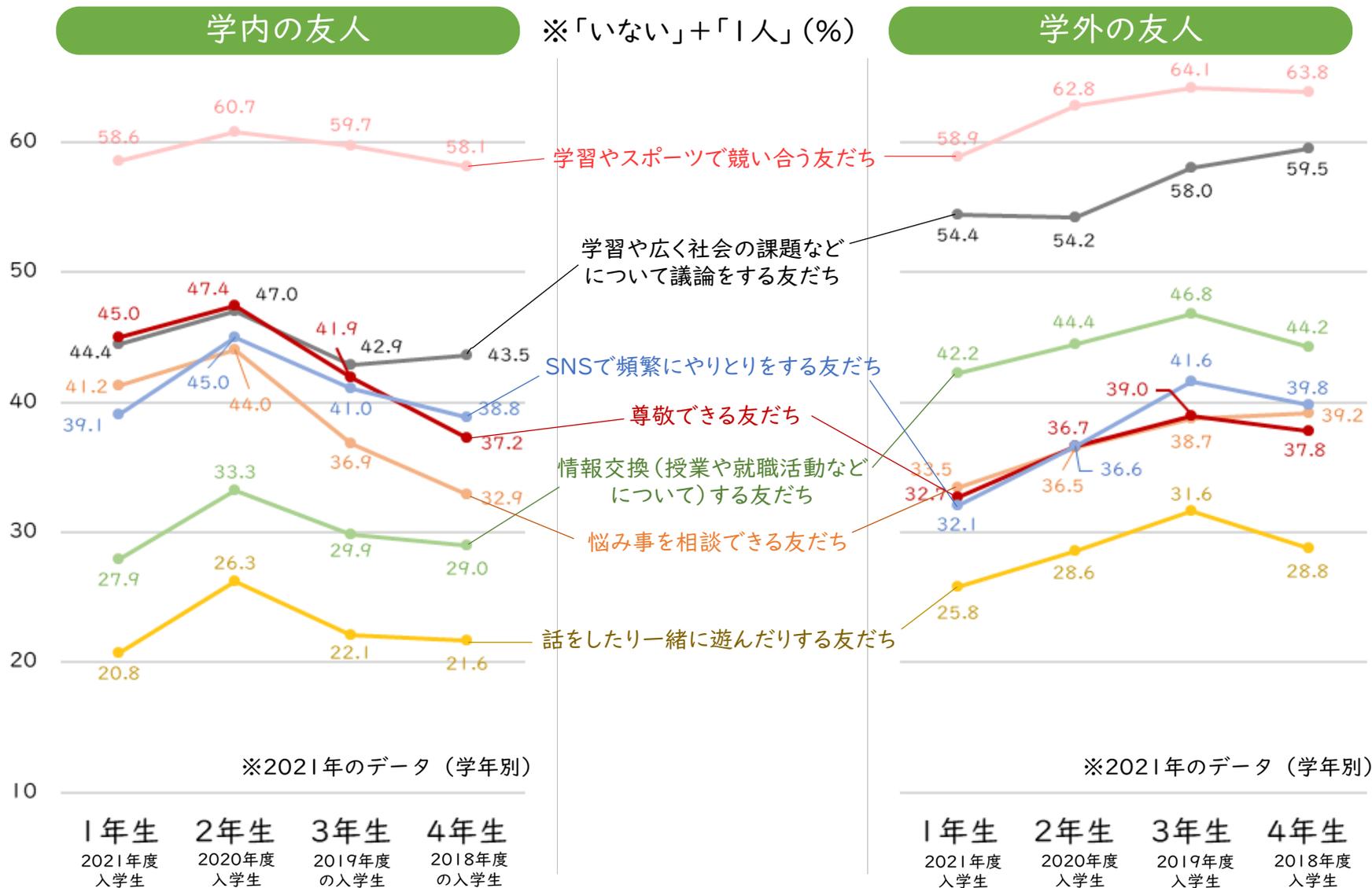
情報交換（授業や就職活動などについて）する友だち



※2008年は調査していない。

# ◆友人「いない+1人」の割合（学年別）

## ●学内の友人は2年生、学外の友人は3・4年生で少ない

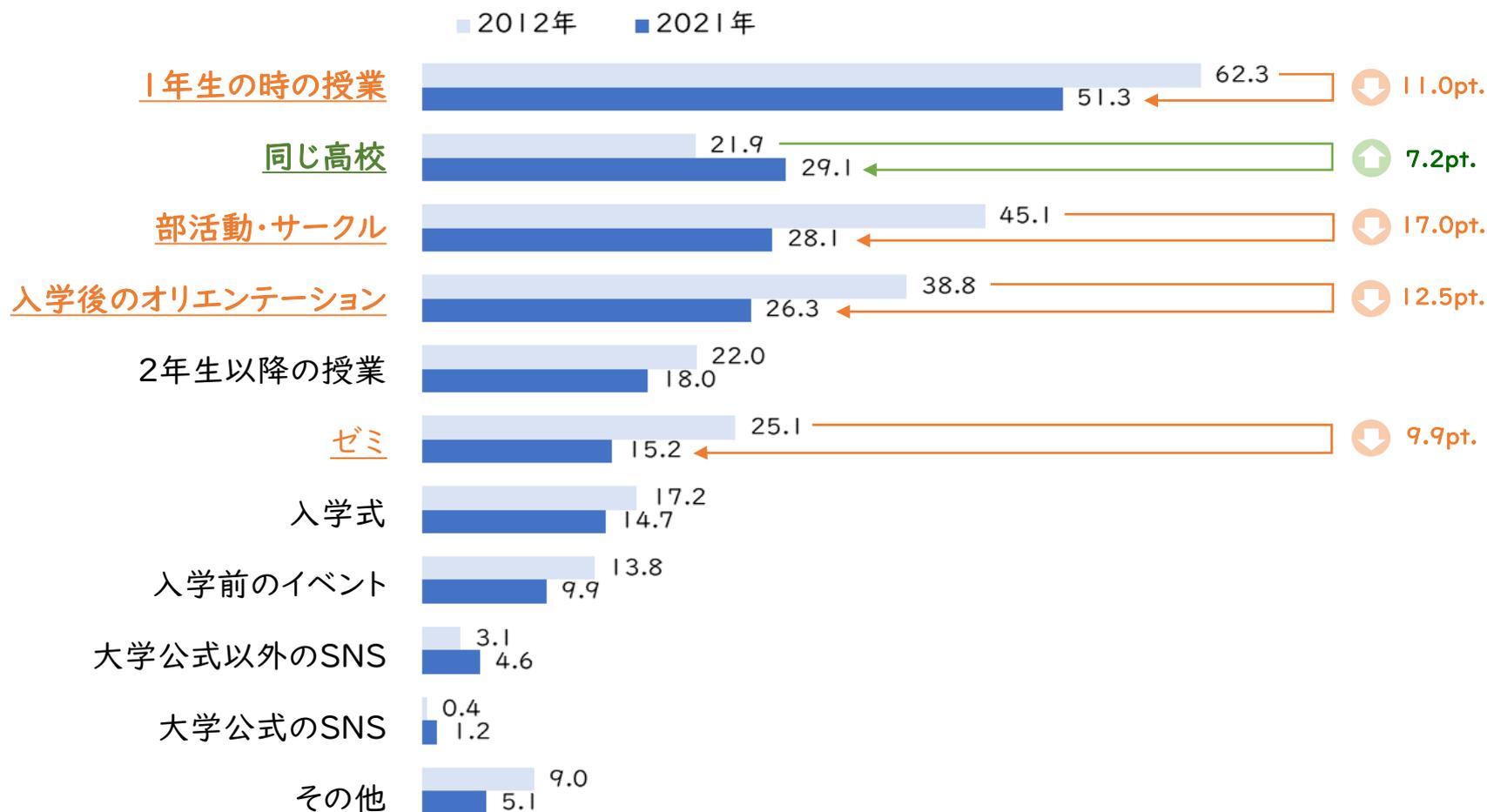


## ◆友人になるきっかけ

【31】

## ●「部活動・サークル」「入学後のオリエンテーション」が大きく減少

◆大学で今仲良くしている友だちとは、何をきっかけに知り合いましたか。 ※複数選択(%)



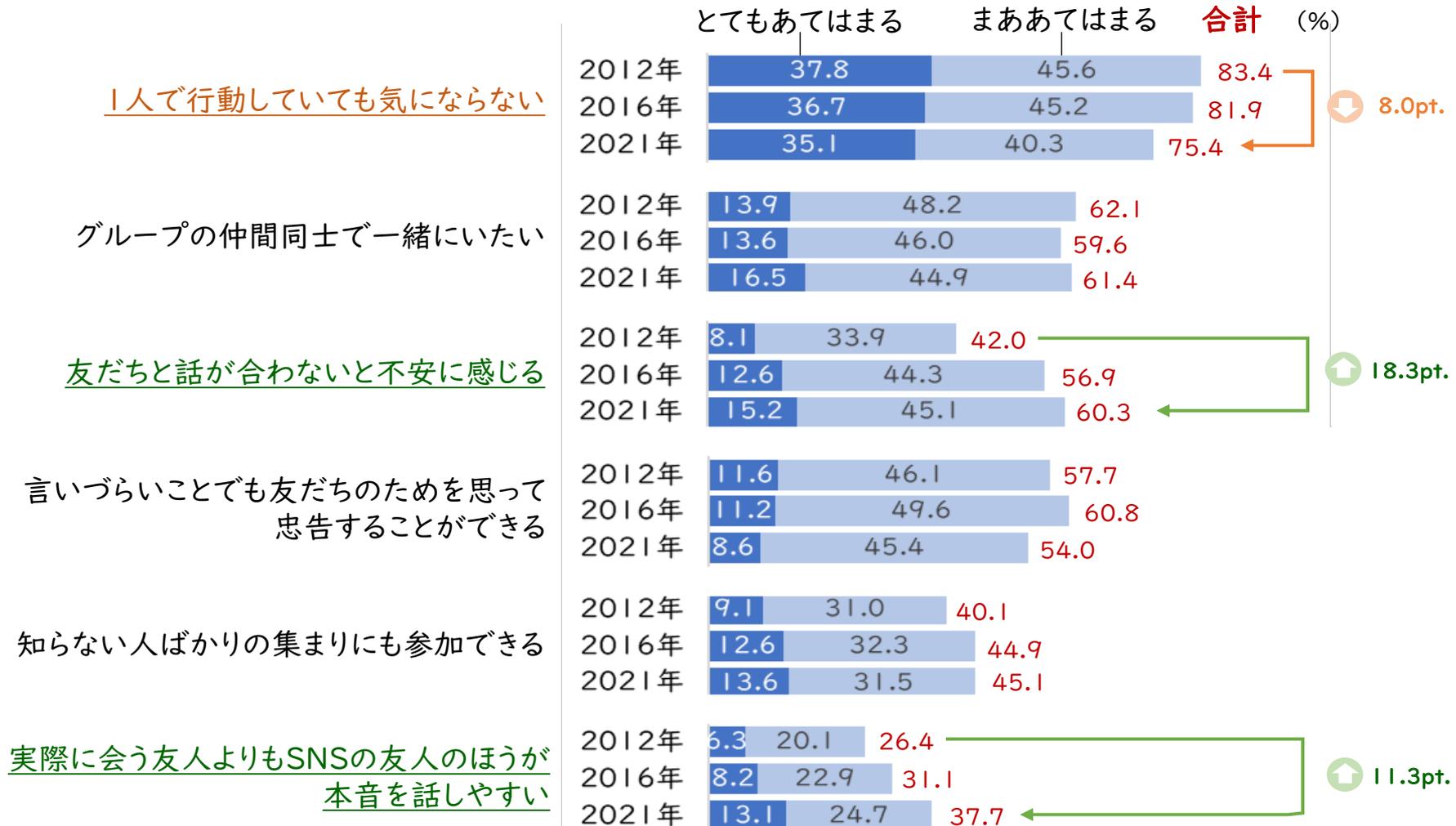
※2008年、2016年は調査していない。

## ◆人づきあい

【32】

## ●「友だちと話が合わないと不安」が12年と比べて18.3pt.増加

◆人との付き合い・交流について、次のようなことはどのくらいありますか。



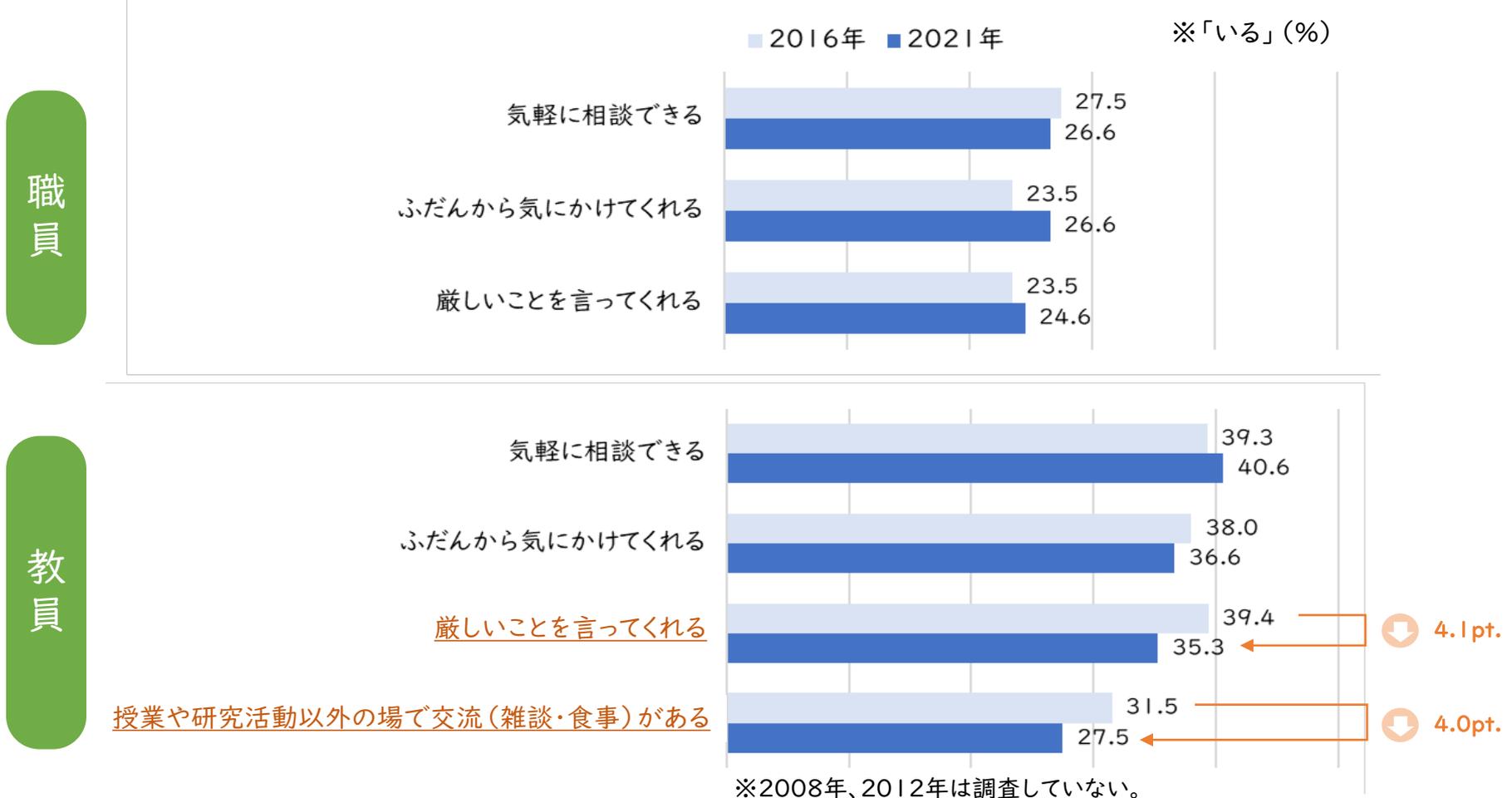
※2008年は調査していない。

# ◆教職員との関係

【33】

## ●厳しいことを言う、授業以外で交流がある教員が「いる」割合が減少

◆あなたの周囲に、次にあげるような大学の職員や教員はいますか。



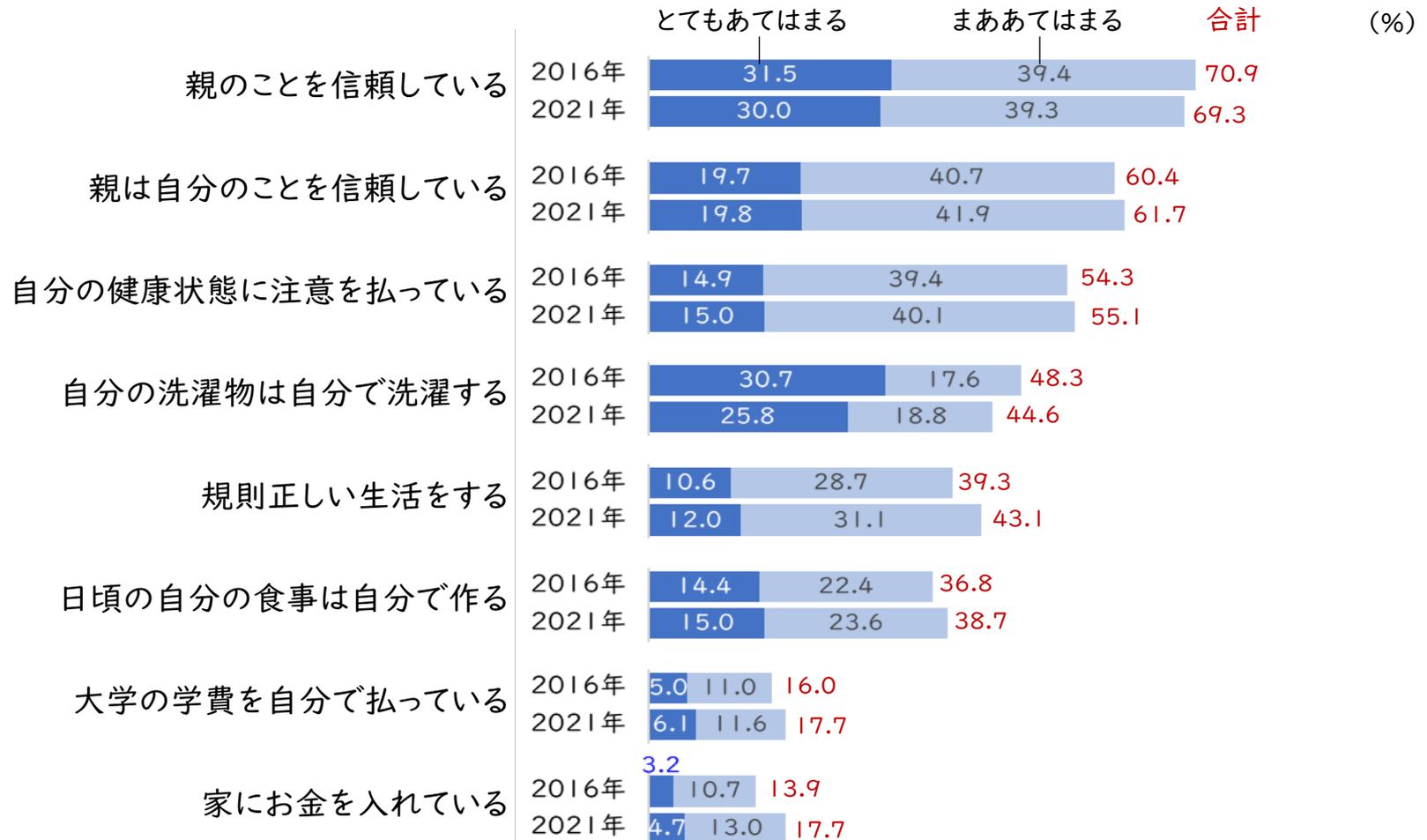
◆職員、教員ともにすべての項目で2～4割程度と、関係は濃くない

## ◆ 自立・親子関係

【34】

## ● 16→21年で、大きく変化していない

◆ あなたは次のようなことについてどう思いますか。



※選択肢は、「とてもあてはまる」「まああてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の5つ。

※2008年、2012年は調査していない。

# ◆保護者との関係

【35】

●困ったとき「保護者が助けてくれる」が08→21年で約20pt.増加

◆あなたと保護者との関係について、もっとも近いもの1つをお選びください。

## ①物事の決定

【A】保護者のアドバイスや意見に従うことが多い

【B】なにごと自分で決めることが多い

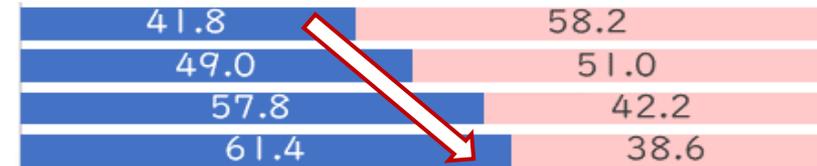


## ②困ったとき

(%)

【A】困ったことがあると、保護者が助けてくれる

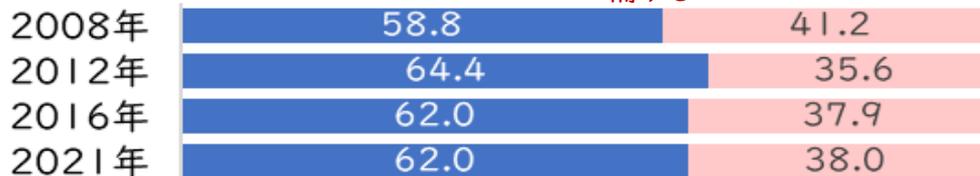
【B】困ったことがあると、自分で解決する



## ③お金が必要なとき

【A】お金が必要になったら、保護者が援助してくれる

【B】お金が必要になったら、アルバイトなどして自分で準備する

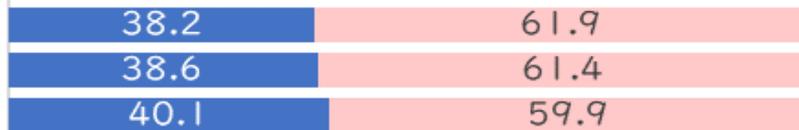


## ④進路や就職に関する相談

【A】進路や就職に関して保護者の方から希望や意見を言われる

【B】進路や就職に関して自分の方から保護者に話をしたり、相談をする

※2008年はたずねていない

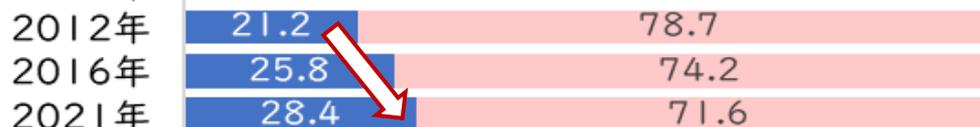


## ⑤進路や就職に関する決定

【A】進路や就職に関しては、保護者の意見を重視したい(した)

【B】進路や就職に関しては保護者の意見によらず自分の考えで決めたい(決めた)

※2008年はたずねていない



## ⑥小中学生の頃

【A】小中学生の頃、あなたが困ったとき、保護者がだいたい解決してくれた

【B】小中学生の頃、あなたが困ったとき、保護者は手を出さずに見守ってくれた

※2008年、2012年はたずねていない



## ◆ Part04 : 留学と就職

【36】

- 留学 (p.37) ……現地留学の希望 (経験者含む) は、12→21年で5.7pt.減少
- 就職活動開始時期 (p.38) ……早期化しており、就職予定者の半数は3年生の夏休み前に開始
- 進路決定状況 (p.39) ……「まだ考えていない」が微増しているが、大きな変化はない
- インターンシップ参加 (p.40) ……参加は「半日や1日のもの」が主流
- 内定先／進路希望 (p.41) ……12→21年で内定先は変化なし。希望は民間企業・公務員が微減

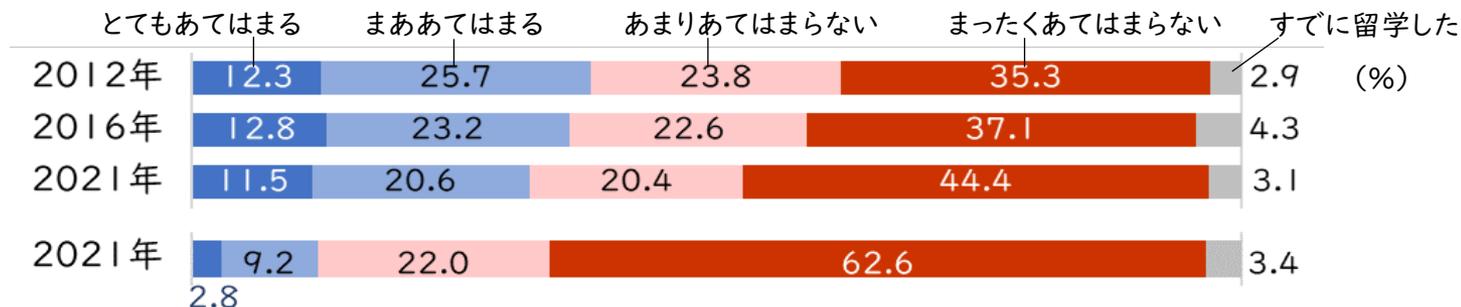


## ◆ 留学

【37】

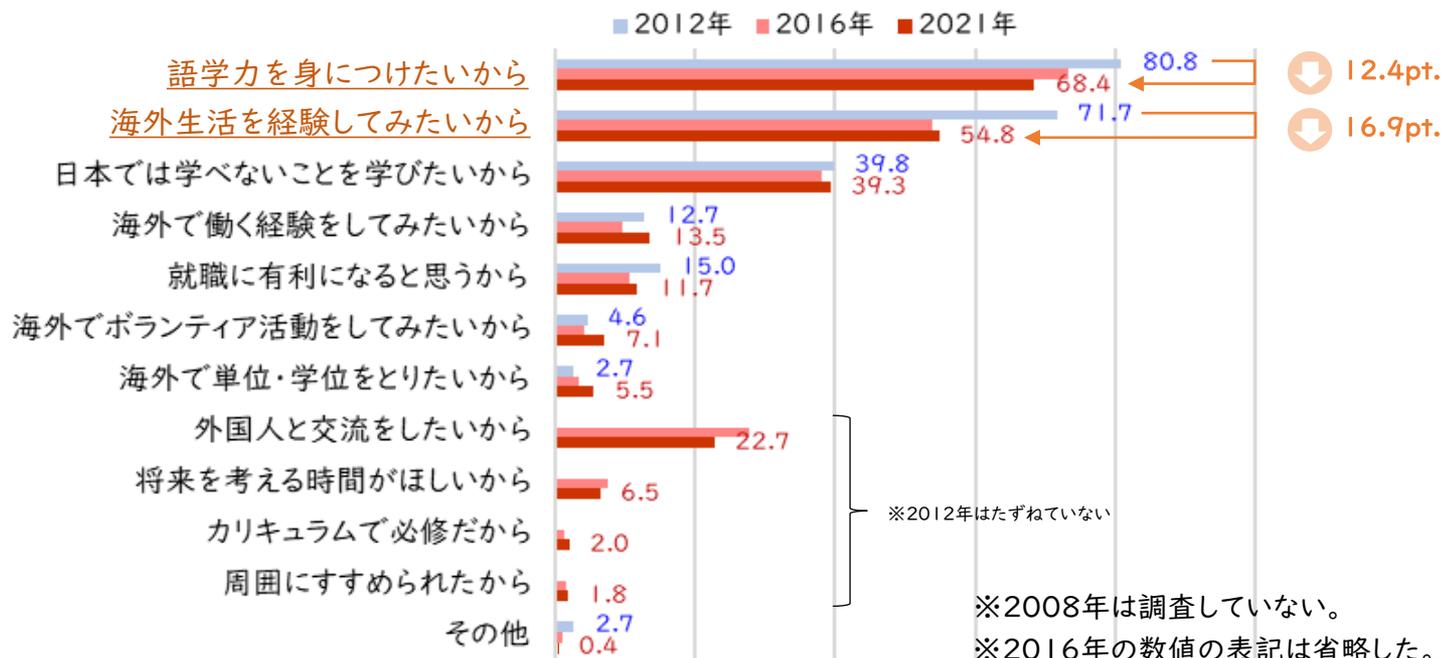
## ● 現地留学の希望（経験者含む）は、12→21年で5.7pt.減少

◆ あなたの在学中（大学・大学院）の海外留学の意向について、お選びください。

① 現地留学  
したいか② オンライン留学  
したいか

※①か②で「とてもあてはまる」「まああてはまる」「すでに留学した」と回答した人のみ

※複数選択 (%)

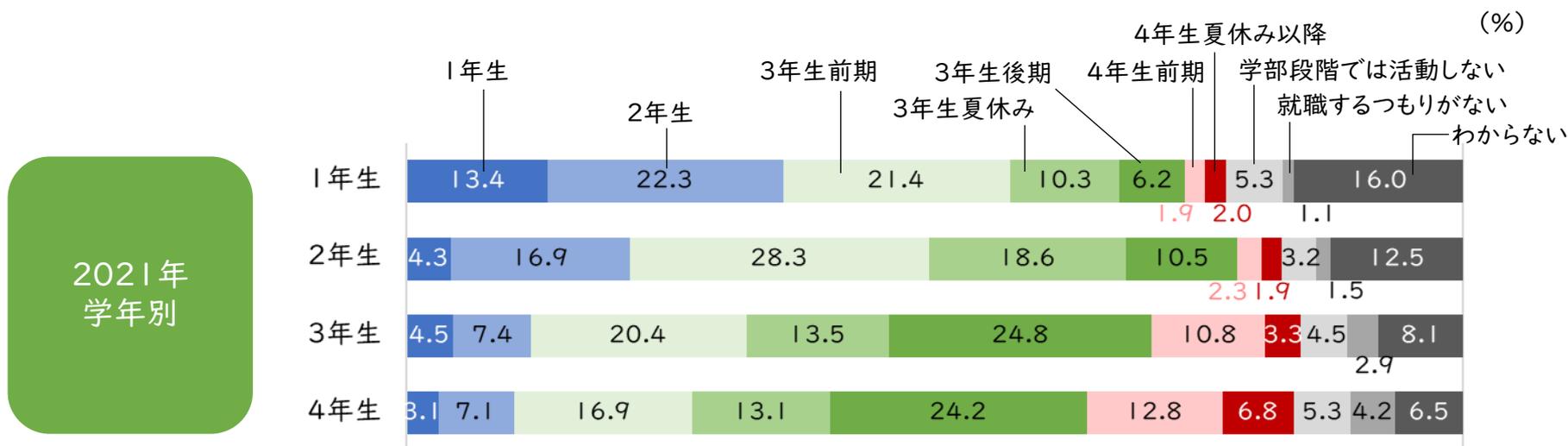
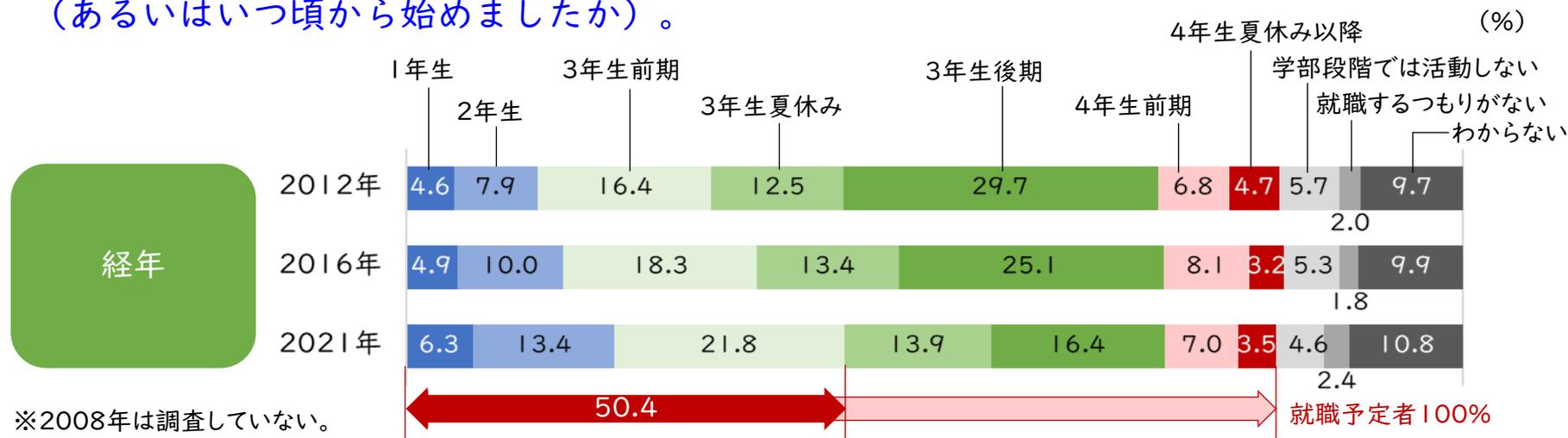
留学したい  
理由

# ◆就職活動開始時期

【38】

●**早期化**しており、就職予定者の半数は3年生の夏休み前に開始

◆大学卒業後の進路に向けた準備・活動をいつ頃から始めようと考えていますか  
(あるいはいつ頃から始めましたか)。



# ◆進路決定状況

【39】

●「まだ考えていない」が微増しているが、**大きな変化はない**

◆大学卒業後の進路（就職、大学院進学等を含む）の決定・検討状況についてお選びください。

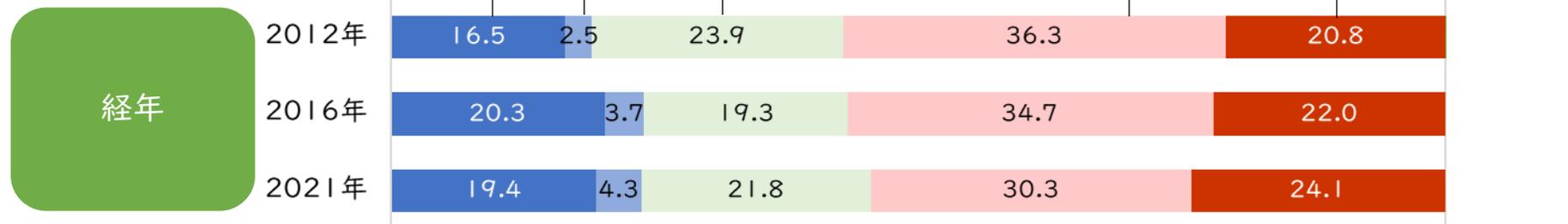
進路が内定しているが、より希望する進路の実現に向けて準備・活動を継続している

希望進路について、検討中である (%)

進路が決定（内定）している

進路は内定しておらず、希望進路の実現に向けて準備・活動中である

希望進路について、まだ考えていない



※2008年は調査していない。

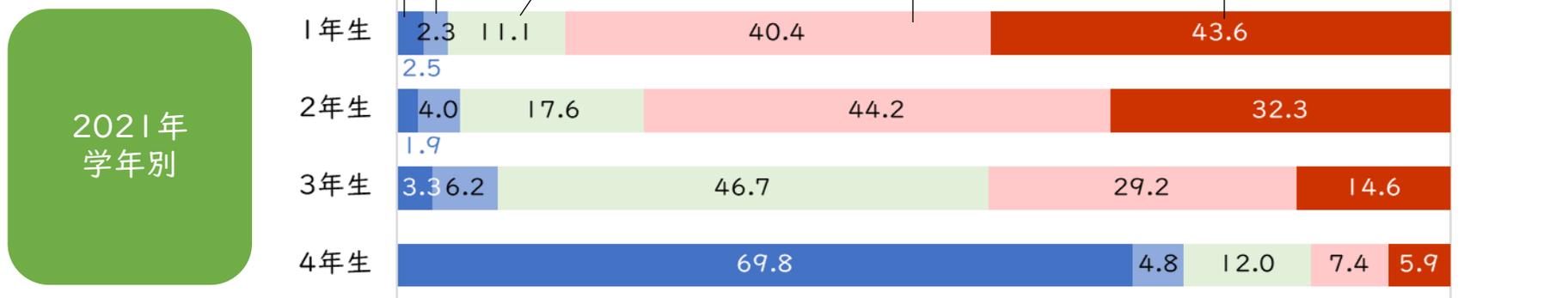
進路が内定しているが、より希望する進路の実現に向けて準備・活動を継続している

希望進路について、検討中である (%)

進路が決定（内定）している

進路は内定しておらず、希望進路の実現に向けて準備・活動中である

希望進路について、まだ考えていない



# ◆インターンシップ参加

【40】

## ●参加は「半日や1日のもの」が主流

◆あなたはこれまでに、次のようなインターンシップに参加したことがありますか。

※複数回答 (%)

全体

学年別

1年生

2年生

3年生

4年生

半日や1日のもの(1dayインターンシップ) 23.6

5.0

6.0

40.3

43.2

2~3日のもの 8.1

2.7

2.6

12.8

14.4

4~5日のもの 4.7

2.3

3.8

5.8

6.8

1週間程度のもの 4.1

2.5

3.7

5.4

4.8

2週間程度のもの 2.1

1.8

1.1

3.3

2.0

1か月程度のもの 1.1

1.0

1.1

1.1

1.2

1か月を超えるもの 1.9

1.0

1.9

2.3

2.4

インターンシップに参加したことはない 64.3

85.5

81.7

46.6

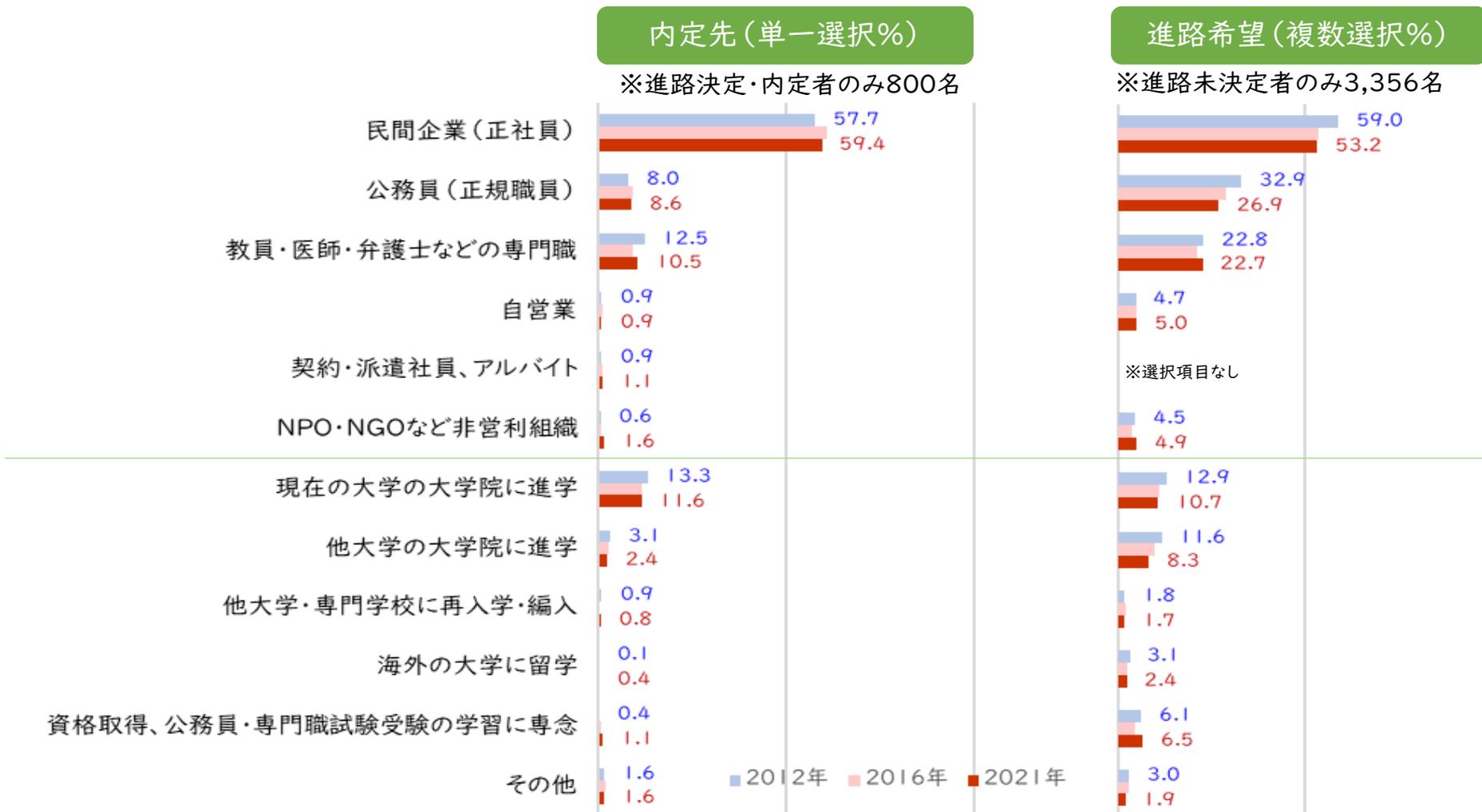
43.5

※2021年調査のみの質問。

# ◆内定先／進路希望

●12→21年で**内定先は変化なし**。希望は民間企業・公務員が微減

◆どのような進路に決定（内定）していますか。／ ◆どのような進路を希望していますか。



# ◆ Part05 : 学びに対する意識・将来観/社会観

【42】

- 建学の精神／3ポリシーの認知 (p.43) ……「知っていて理解している」は3割に満たない
- 大学による支援の利用 (p.44) ……各種の支援や相談を利用する割合が高まっている
- 大学満足度 (p.45) ……21年の「満足している」は55.6%、個別サービスの満足度は向上
- 学びの充実度 (p.46) ……「充実している」は微減。2020年のときの充実度が低い
- 成長実感 (p.47) ……他の学年と比べて2020年度入学生の成長実感が低い
- 姿勢・態度 (p.48) ……16→21年で、「困難を糧に」が7.0pt.、「困難に挑戦」が6.6pt.増加
- 将来観 (p.49) ……16→21年で、「チャレンジする仕事をしたい」が6.0pt. 増加
- 自己認識 (p.50) ……16→21年で、「自分に誇りをもっている」が4.0pt. 増加
- 自他の関係 (p.51) ……16→21年で、「自分の考え・意見をもっている」が4.0pt. 減少
- レジリエンス (p.52) ……16→21年で、「幸せだ」「人生が面白い」が7.5pt.減少
- コロナ禍の影響 (p.53) ……プラス4:どちらでもない3:マイナス3

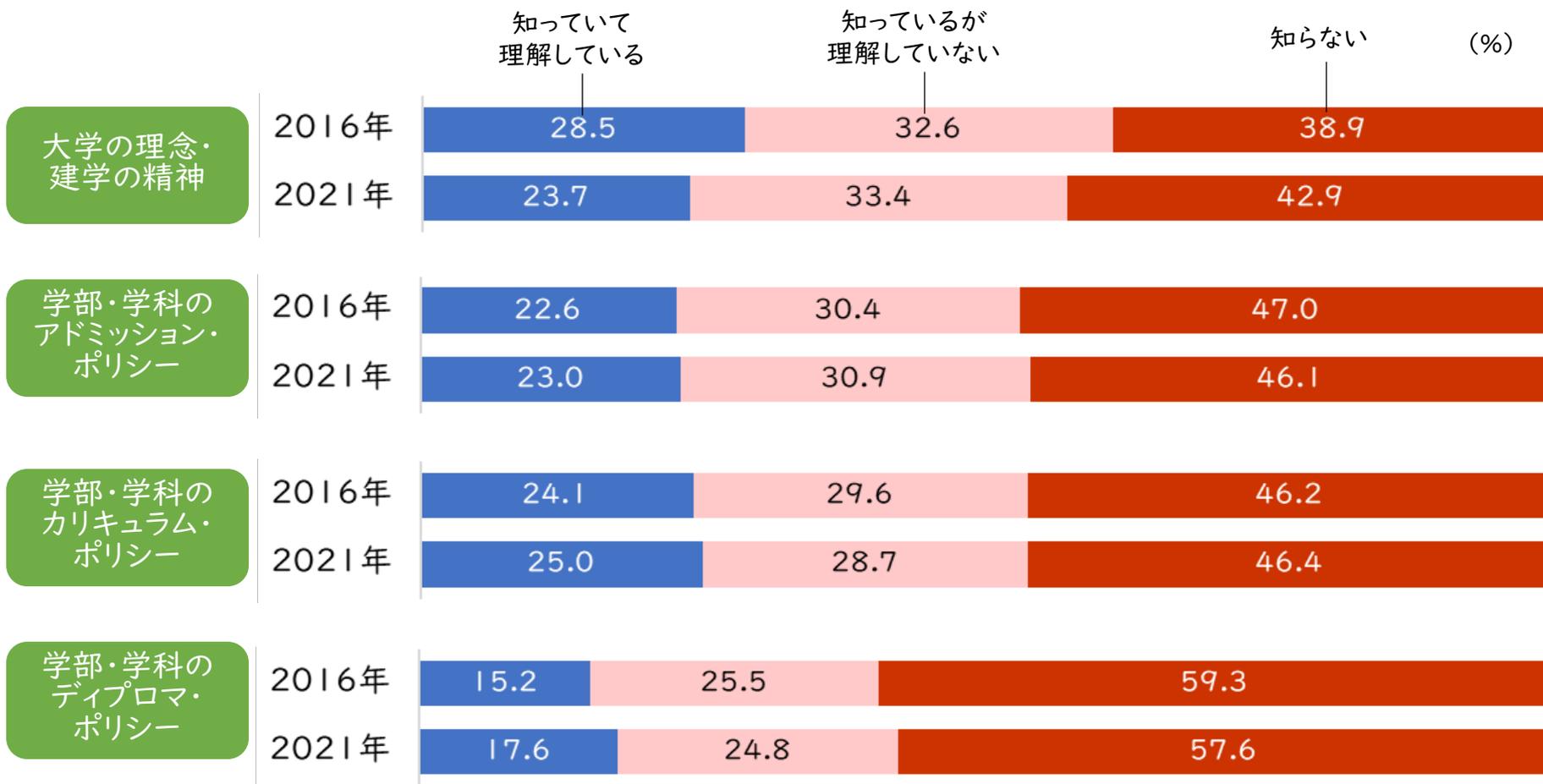


## ◆建学の精神／3ポリシーの認知

【43】

●3ポリシーについて「知っていて理解している」は3割に満たない

◆現在通っている大学の理念についてどのくらい理解していますか。



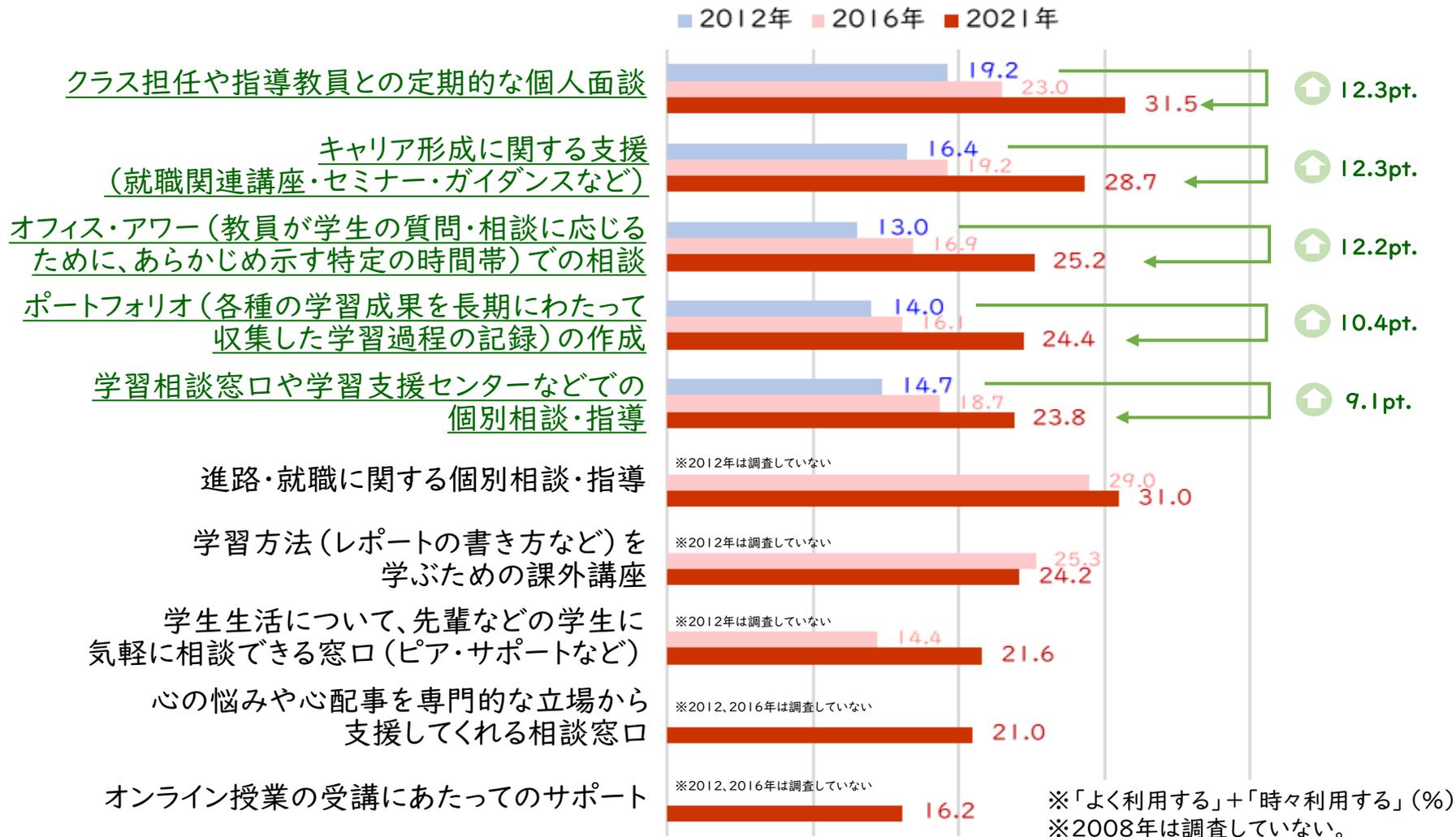
※2008年、2012年は調査していない。

◆16→21年にかけて学生の認知は広がっていない

# ◆大学による支援の利用

●大学が準備する**各種の支援や相談**を利用する割合が**高まっている**

◆あなたは、次のような学生に対する支援環境をどの程度利用していますか。



# ◆大学満足度

【45】

●21年の「満足している」は55.6%、個別サービスの満足度は向上

◆現在通っている大学について、どのくらい満足していますか。

(%)

## ●総合的な満足度



## ●個別サービスの満足度

施設・設備（図書館、ラーニングコモンズ、インターネットの利用など）

教員（専門性の高さやよい影響を受けるなど）

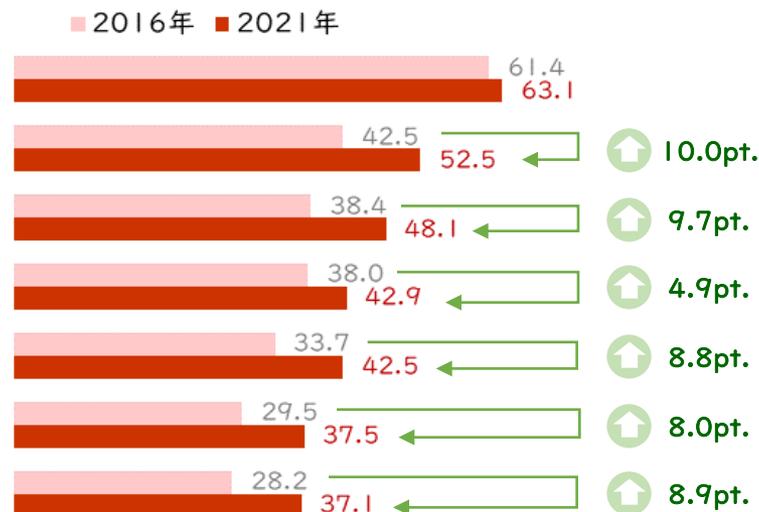
授業・教育システム（教育内容やカリキュラムなど）

進路支援の体制（就職セミナーやガイダンスなど）

資格試験や語学への支援（特別講座や説明会など）

職員（教務窓口での対応など）

経済的支援の体制（奨学金制度や授業料免除制度など）



※「とても満足している」+「まあ満足している」(%）。2008年、2012年は調査していない。

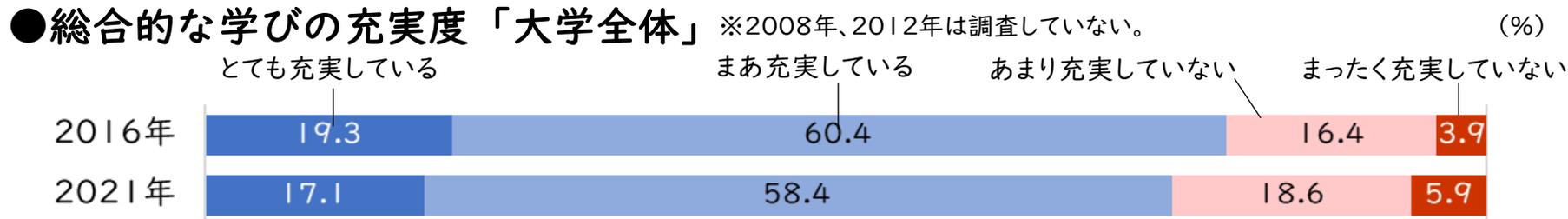
※選択肢は、「とても満足している」「まあ満足している」「どちらでもない」「あまり満足していない」「まったく満足していない」「判断できない」の6択。

# ◆学びの充実度

【46】

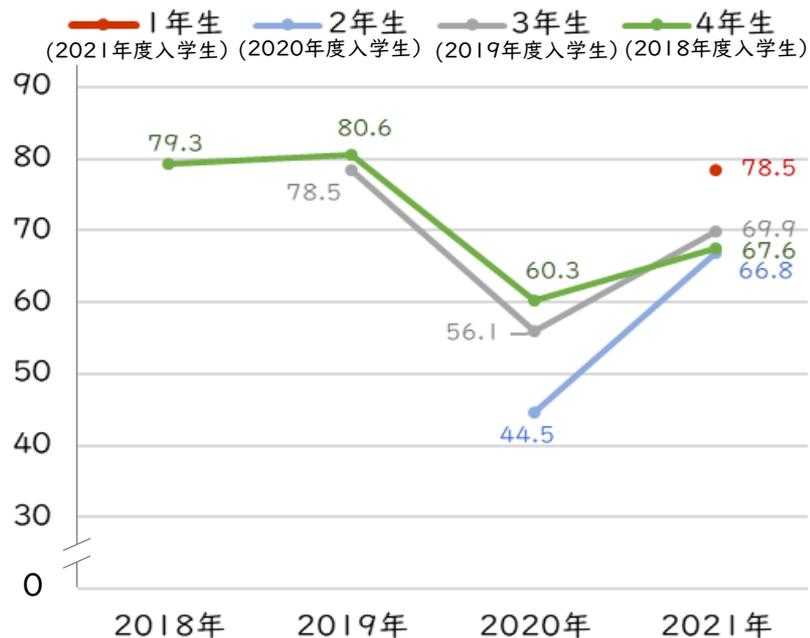
●「充実している」は微減。2020年のときの充実度が低い

◆大学の各学年における学びの充実度について、あてはまるものを1つお選びください。



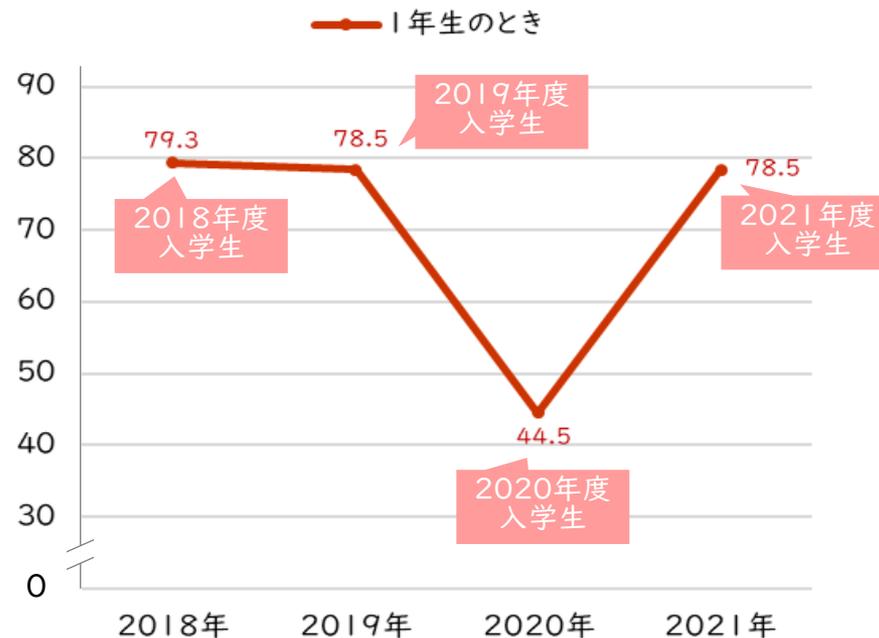
## ●学びの充実度（学年別）

※「とても充実している」+「まあ充実している」の合計(%)



## ●1年生のときの「学びの充実度」

※「とても充実している」+「まあ充実している」の合計(%)



# ◆成長実感

## ●他の学年と比べて2020年度入学生の成長実感が低い

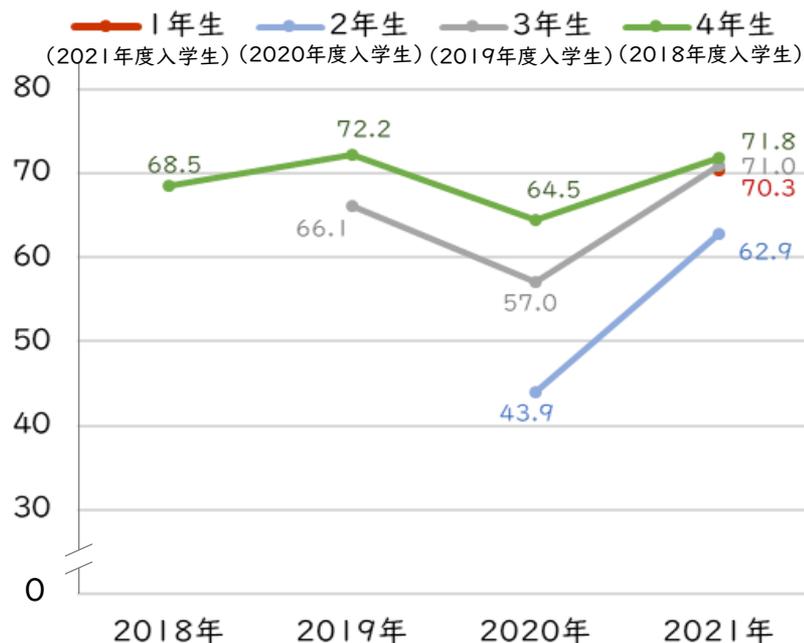
◆大学の各学年における成長実感について、あてはまるものを1つお選びください。

### ●成長実感「大学全体」 ※2008年、2012年は調査していない。 (%)



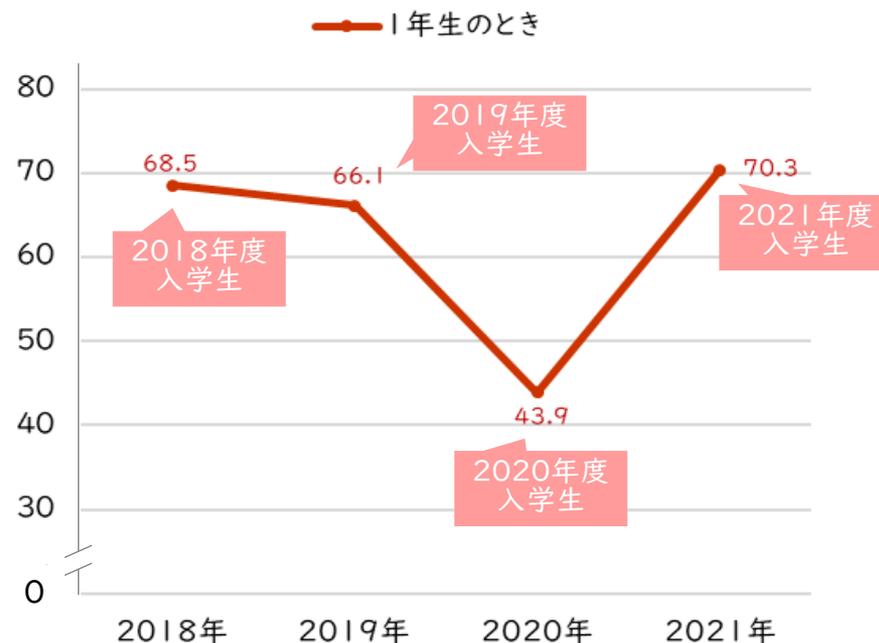
### ●成長実感（学年別）

※「とても実感する」+「まあ実感する」の合計 (%)



### ●1年生のときの「成長実感」

※「とても実感する」+「まあ実感する」の合計 (%)

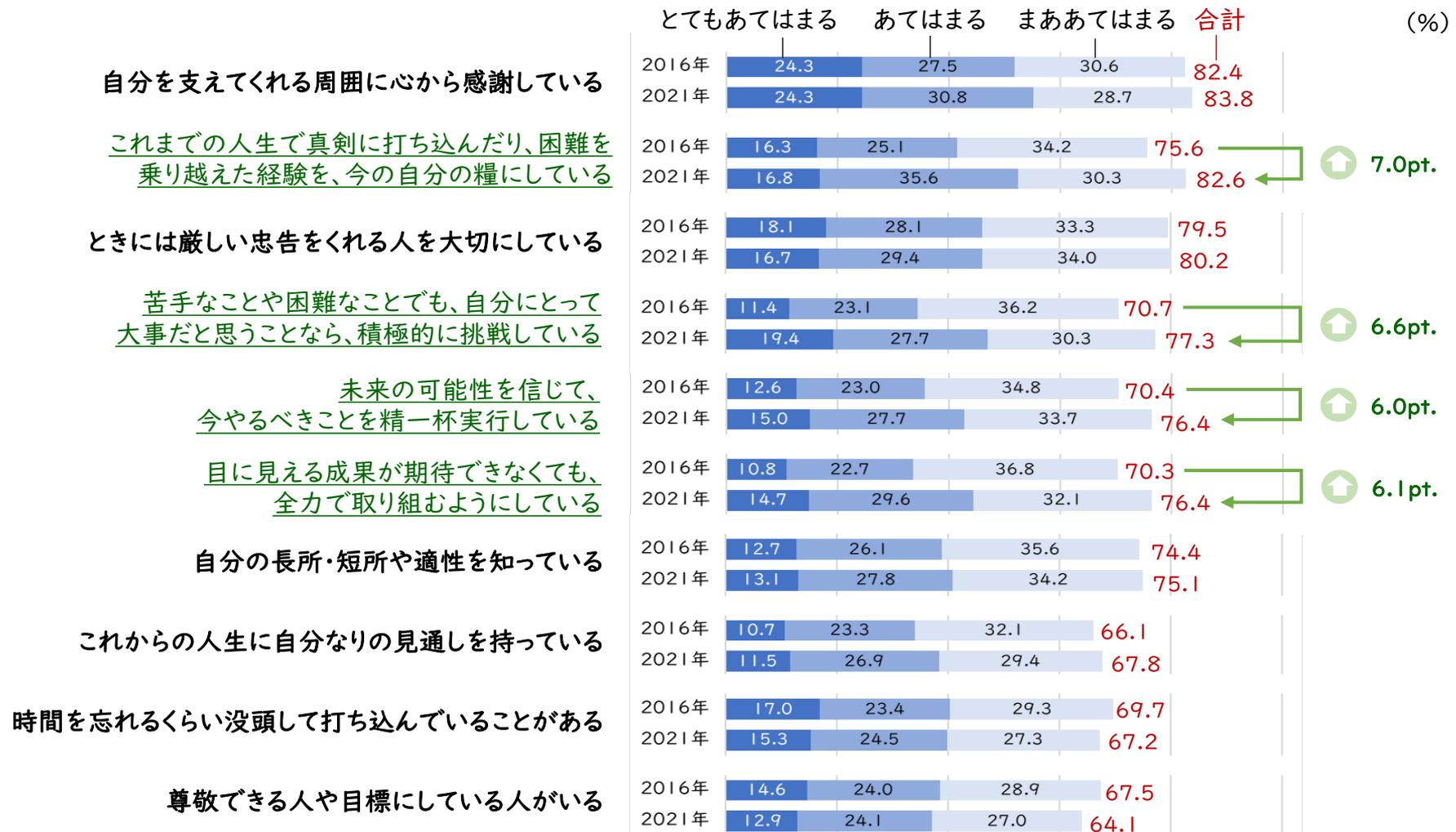


## ◆ 姿勢・態度

【48】

● 16→21年で、「**困難を糧に**」が7.0pt.、「**困難に挑戦**」が6.6pt.増加

◆ あなたは次のようなことについてどう思いますか。



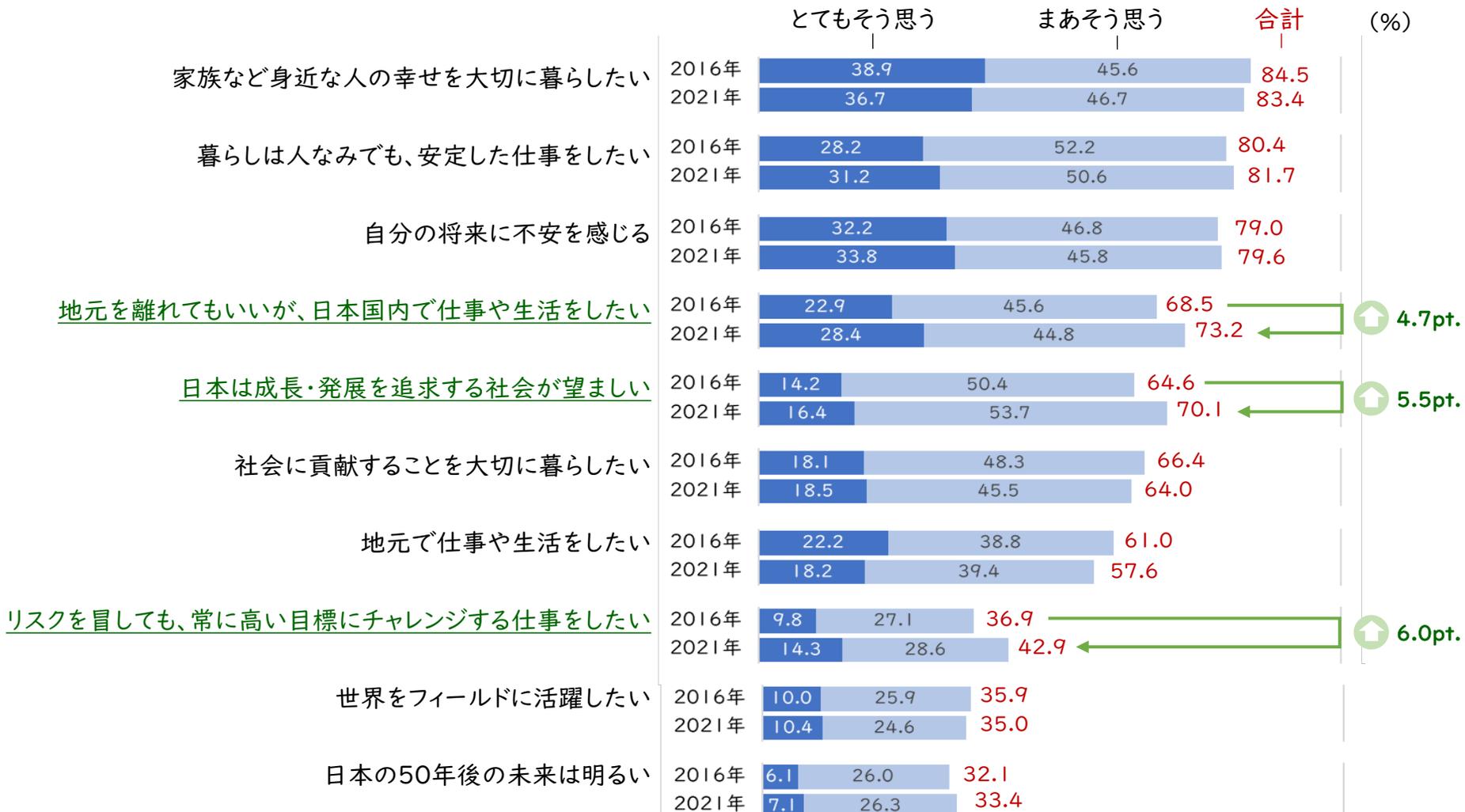
※2008年、2012年は調査していない。

## ◆将来観

【49】

## ●16→21年で、「チャレンジする仕事をしたい」が6.0pt. 増加

◆あなたは次のようなことについてどう思いますか。



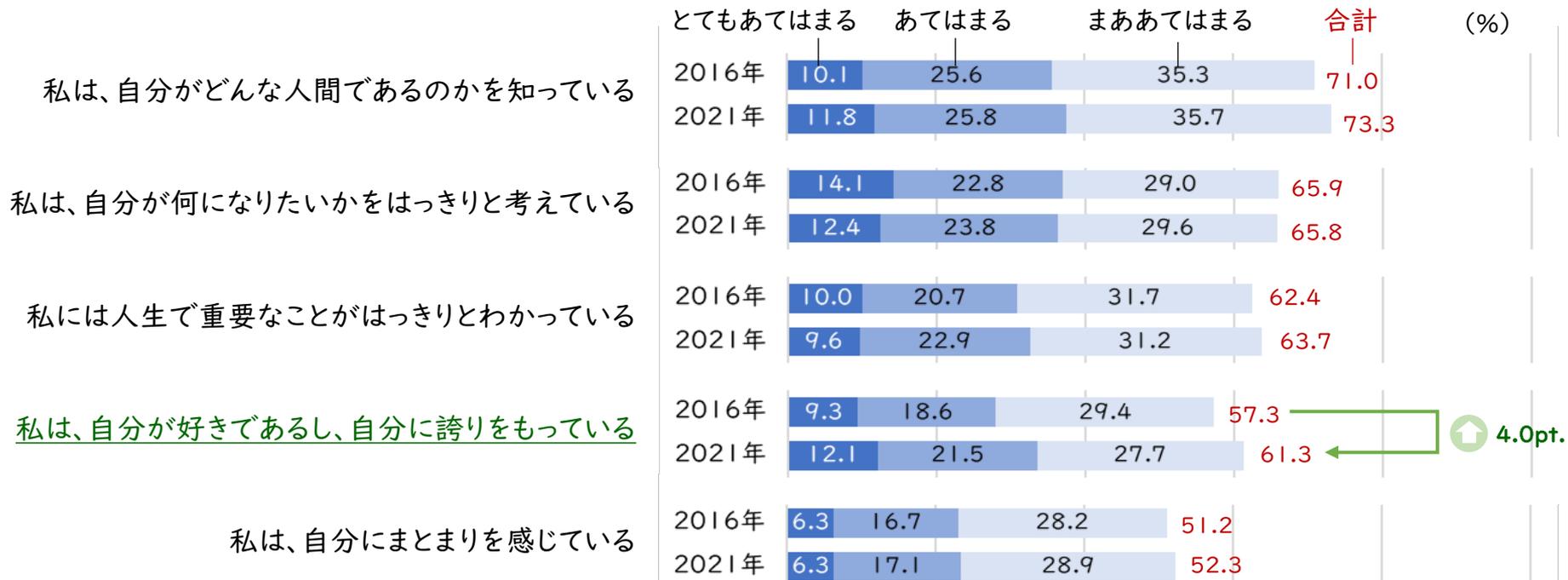
※2008年、2012年は調査していない。

## ◆自己認識

【50】

●16→21年で、「自分に誇りをもっている」が4.0pt. 増加

◆あなたは次のようなことについてどう思いますか。

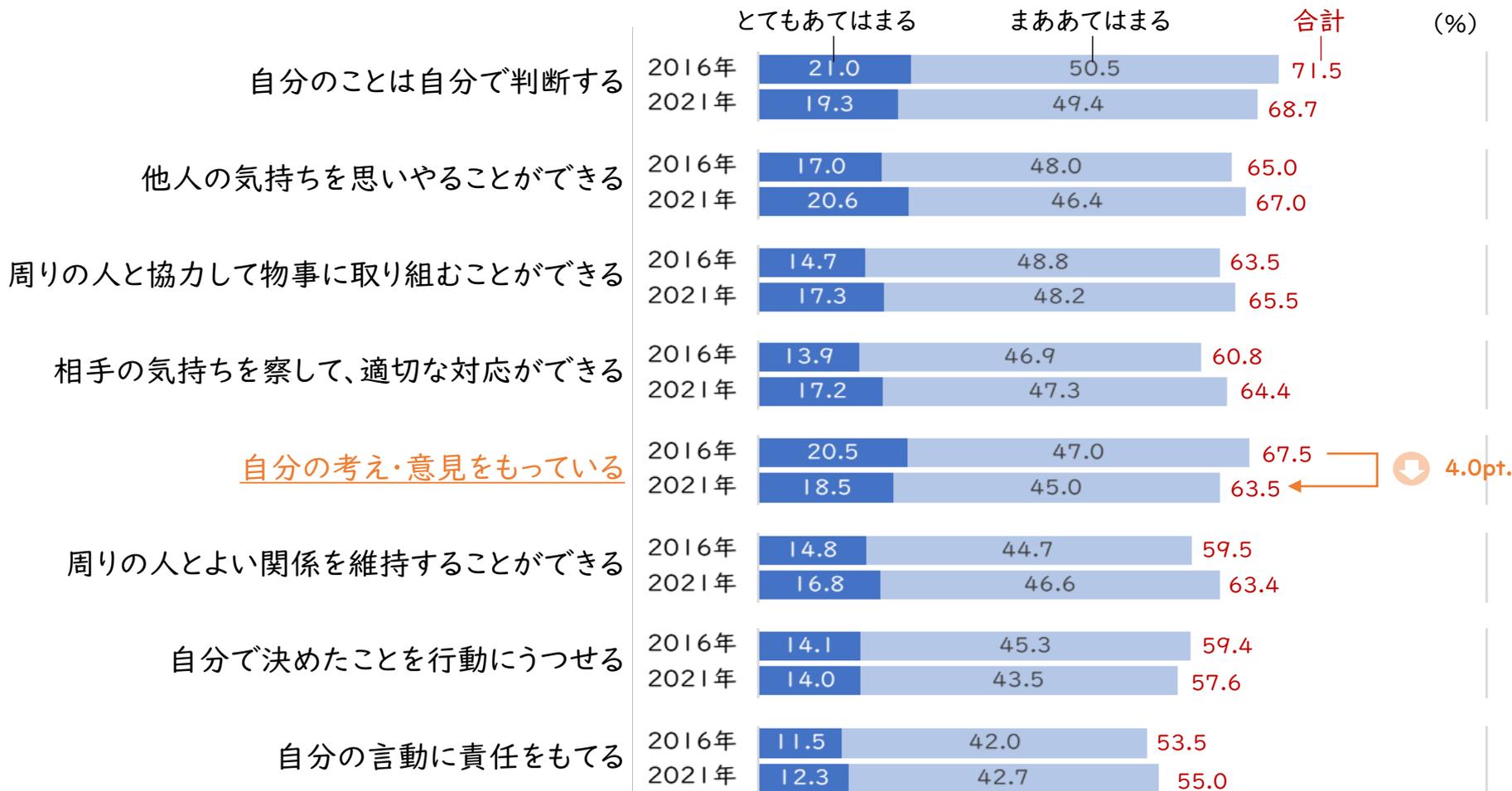


※2008年、2012年は調査していない。

# ◆ 自他の関係

● 16→21年で、「**自分の考え・意見をもっている**」が4.0pt. **減少**

◆ あなたは次のようなことについてどう思いますか。



※2008年、2012年は調査していない。

※選択肢は、「とてもあてはまる」「まああてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の5択。

## ◆レジリエンス

【52】

## ●16→21年で、「幸せだ」「人生が面白い」が7.5pt.減少

◆あなたは次のようなことについてどう思いますか。

ものごとが思ったように進まない場合でも、  
あなたはその状況に適切に対処できる

ここ数年やってきたことを全体的に見て、幸せだ

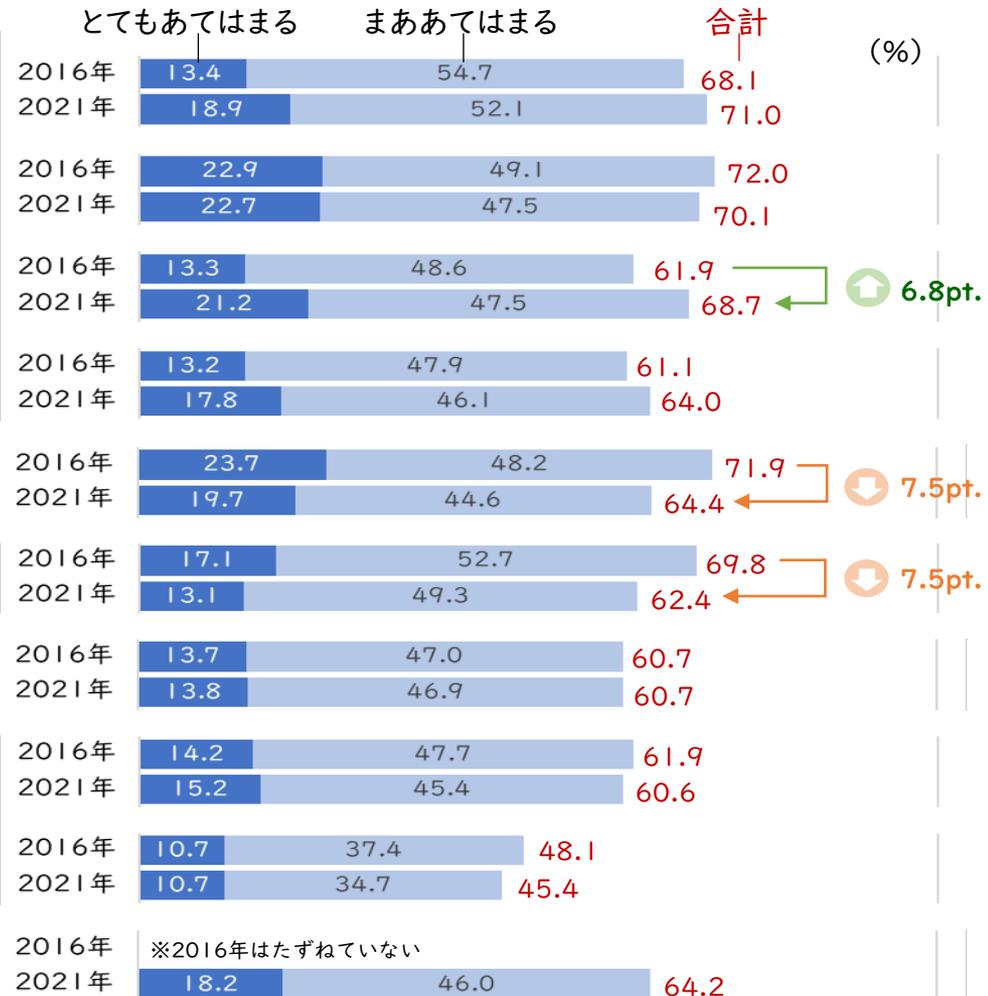
危機的な状況(人生を狂わせるようなこと)に出会ったとき、  
立ち向かって解決していける今の調子でやっていけば、これから起きることに  
も対応できる過去と比較して、現在の生活は幸せだ人生が面白い

自分がやろうとしたことはやりとげている

これまでの学生生活(学習や部活、人間関係など)は  
成功している

期待通りの学生生活を手に入れた

コロナ禍は新しいことを始めるチャンスだ



※2008年、2012年は調査していない。

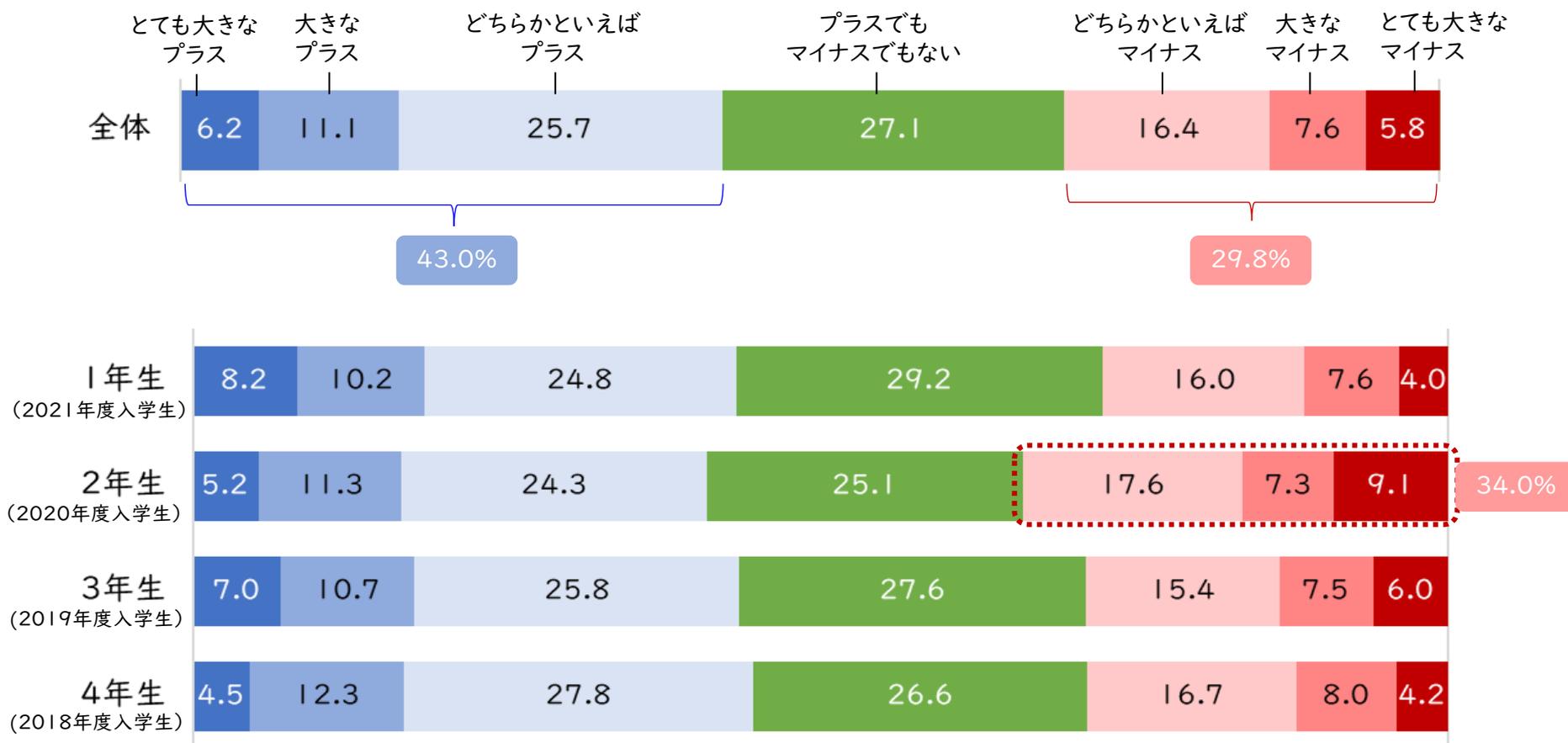
# ◆コロナ禍の影響

【53】

●プラス4：どちらでもない3：マイナス3。2年生でマイナスが多い

◆今回の新型コロナウイルスの感染拡大に伴ういろいろな出来事は、あなたにとってどのような影響を与えましたか。

(%)



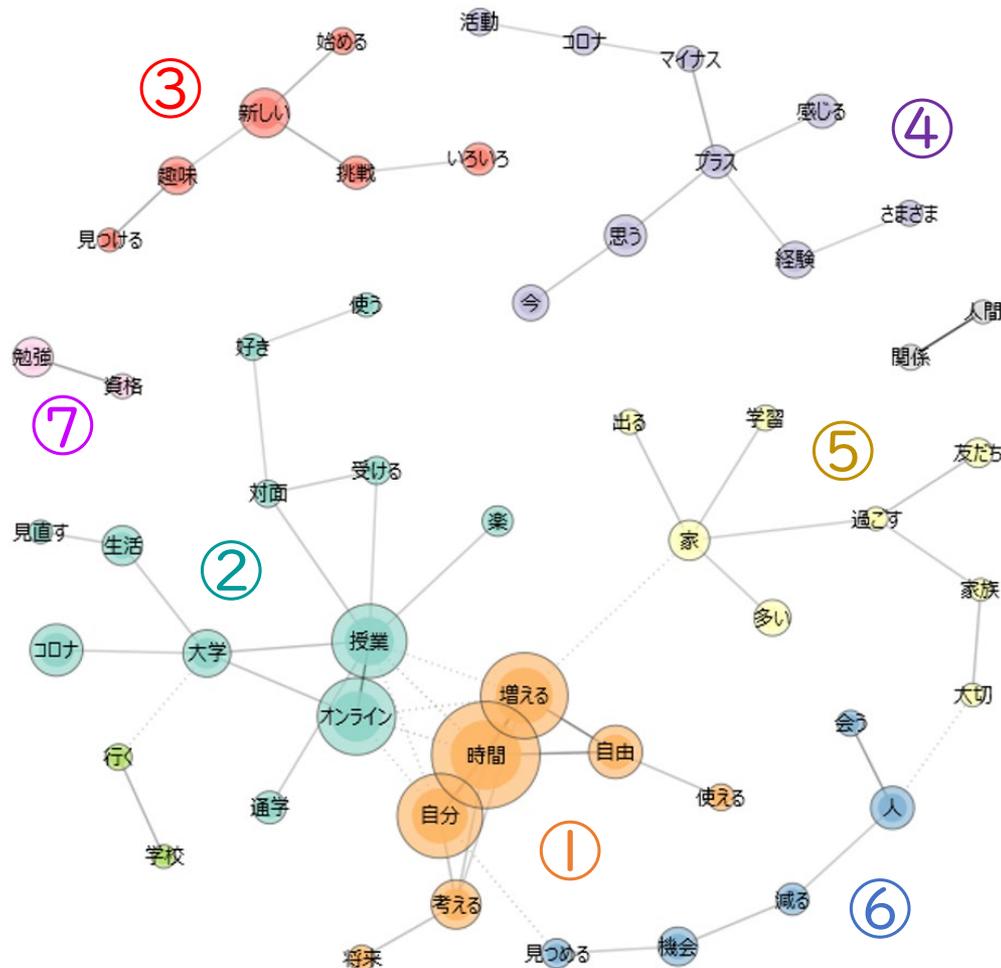
※2021年調査のみの質問。

# ◆コロナ禍の影響—自由記述分析①

【54】

## ●コロナ禍の影響（p.53）に対して「プラス」と回答した学生

### ◆KH Coder（樋口2020）による共起ネットワーク分析の結果



### ●コロナ禍の経験が「プラスだった」と回答した学生の自由記述の主な結果

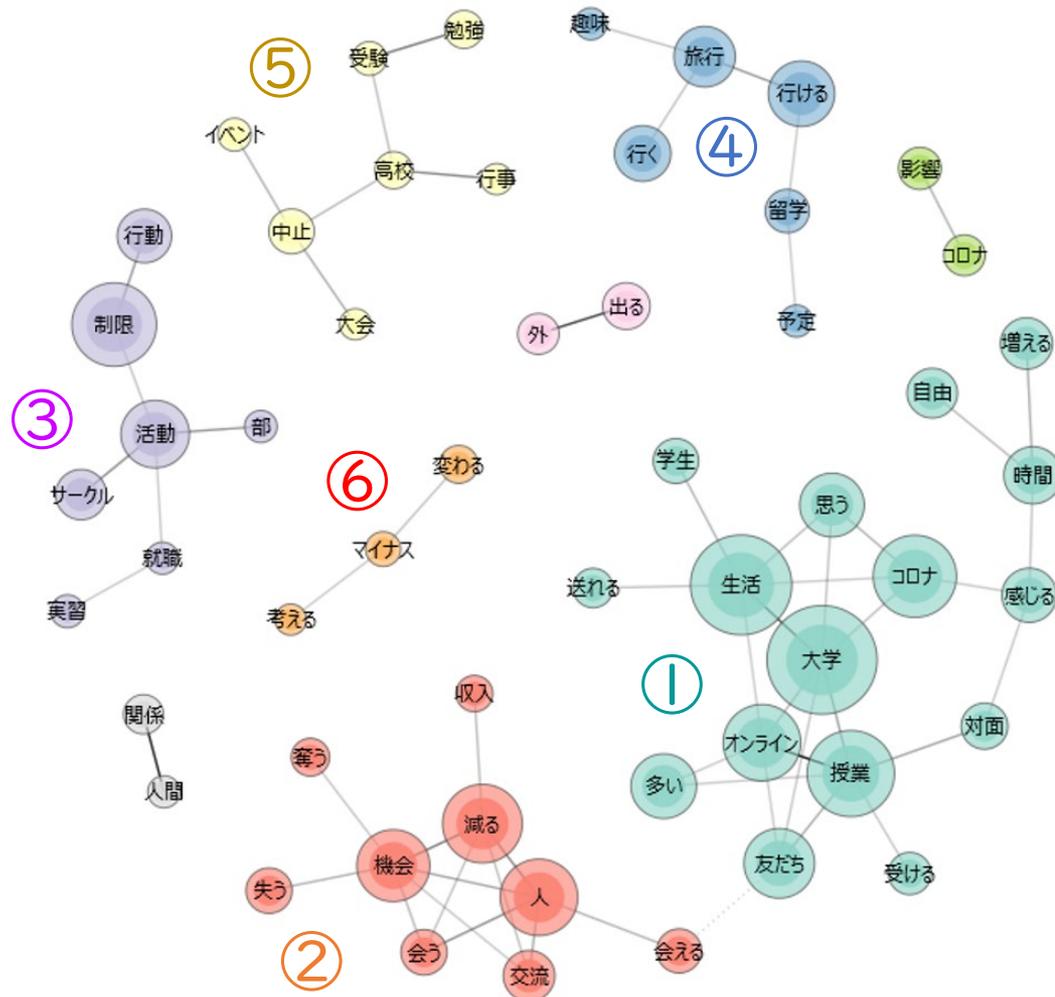
- ①自分の自由になる時間が増えた結果、将来や進路を考える機会になった
- ②コロナ禍で大学の授業がオンラインになり、それが自分に向いている、通学しないことが楽だと感じる
- ③いろいろな趣味や挑戦を行うきっかけになり、新しい趣味を見つけたり始めたりした
- ④コロナ禍にはプラスもマイナスもあったが、今になるとさまざまな経験や活動ができたと感じる
- ⑤家で過ごす時間が長く、外に出ることがなくなり、学習時間が増えるとともに、家族や友だちと過ごすことの大切さを感じた
- ⑥人と会う機会が減り、自分のことを見つめ直すことにつながった
- ⑦資格を取得するための勉強ができた

# ◆コロナ禍の影響—自由記述分析②

[55]

## ●コロナ禍の影響（p.53）に対して「マイナス」と回答した学生

### ◆KH Coder（樋口2020）による共起ネットワーク分析の結果



### ●コロナ禍の経験が「マイナスだった」と回答した学生の自由記述の主な結果

- ① コロナ禍で大学の授業はオンラインの授業が多くなり、自由な時間は増えたが、大学生活が変わった（オンライン授業に対するネガティブ反応は多数）
- ② 人と会う機会や交流が減った
- ③ さまざまな活動（サークル活動や就職活動など）に制限がかかった
- ④ 旅行に行くなどの趣味の機会や留学をする機会などがなくなってしまった
- ⑤ 高校での受験勉強がうまくいかなかったり、行事やイベント、大会などが中止になったりした
- ⑥ 生活面でマイナスになったり、考え方がマイナスになったりした（精神的に大変だったという回答が一定数あり）

※樋口耕一 2020 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して— 第2版』 ナカニシヤ出版

第4回  
大学生の学習・生活実態調査  
【データ集】

---

発行：2022年（令和4年）7月31日

編集・発行

ベネッセ教育総合研究所

〒206-8686 多摩市落合1-34

---

©Benesse Educational Research and Development Institute

無断転載を禁じます。